

・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	家電量販店（地区統括部長）	・今年の年末にエコポイント制度が終了する予定であるため、相当な駆け込み需要が見込まれる。
	やや良くなる	観光型ホテル（経営者）	・ビジネス客が戻ってきており、宴会場の需要も増加している。当リゾートも会議等の団体利用への問い合わせが増えてきていることから、今後についてはやや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・円高が続くことで、海外旅行の好調が見込まれる。ただし、団体系の旅行は依然として弱含みで推移する。
		タクシー運転手	・暑い日が続いている影響もあるのかもしれないが、近い距離でも客が乗るようになってきている。前年と比較しても約3%売上が伸びていることから、2～3か月後の景気についてはやや良くなる。
		観光名所（職員）	・若干ではあるが、中国人客が増加傾向にあるほか、香港・台湾・シンガポール人の客も増加していることから、今後についてはやや良くなる。一方、国内旅行者については減少しているため、客を増加させるにはイベント等の企画が必要となる。
		パチンコ店（役員）	・業界特有のことかもしれないが、3か月先は年間で最も来客数が減少する時期であるため、大きく良くなることはないが、今月のような来客状況が継続すれば、予想より下回ることもない。
		変わらない	商店街（代表者）
	商店街（代表者）		・気候次第の面はあるが、今年の冬のトレンドとされているファー物の価格高騰もあり、客が早めに冬物に手を出さないことが見込まれる。
	一般小売店〔酒〕（経営者）		・今年に入ってから、売上は一進一退の状況がずっと続いているため、2～3か月で基調が変わっていくことはあまり期待できない。
	スーパー（店長）		・このまま9月も残暑が続くと、野菜が不作となり、価格の高騰を招くため、漬物商材の不振につながる。また、秋冬物衣料にも影響が出てくることも懸念される。
	スーパー（店長）		・来客数は徐々に伸びてきているが、やはりまだ動きに不安な面もあるため、販売量が大きく上回る予想はしづらい。
	スーパー（役員）		・暑さにより、飲料・デリカ・塩干物・冷凍食品等の動きは良いが、生魚・肉・米など、煮炊きする素材の動きが悪い。また、残暑が長引く異常な気象により、農作物の作況や水産物の水揚げにもばらつきが出ている。各商品のバランスが崩れていることから、今後については、全体では決して良くはならない。
	スーパー（役員）		・異常とも言える残暑の影響で農作物・水産物にも影響が出てきている。豊作の物は単価が低下し、不作の物は価格が高くなることで売れない状況となる。
	衣料品専門店（店長）		・2～3か月後は寒くなり、燃料費等に出費がかさむため、今後については良くならない。
	家電量販店（店員）		・9～10月についても、引き続きエコポイント制度の効果で薄型テレビの販売が期待できる。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）		・自動車燃料の販売量は減少傾向が続いていることから、今後も変わらないまま推移する。
	高級レストラン（スタッフ）		・各地で行われる食の催事の様子をみると、前年より人の動きが活発化しているため、今後についてはこれ以上悪くならないと感じる。
	高級レストラン（スタッフ）		・お祭りなどの催事がある時の来客数は増加するが、何も無い平日の動きが極端に少ないため、今後も変わらないまま推移する。
	旅行代理店（従業員）		・来客数はますますの水準にあるが、低価格志向は相変わらずである。また、商品のラインナップも低価格商品中心に向かっているため、利用客が増加しない限り、今後の回復は見込めない。
旅行代理店（従業員）	・先行の販売状況があまり変わっていないため、今後も変わらない。		
タクシー運転手	・注文数や来客数の増える要素が思い当たらない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（社員）	・年末までの間に特に大きなイベントもないため、景気浮揚策が打ち出されない限り、今後には期待はできない。
		通信会社（企画担当）	・少なくとも冬商戦までは、夏商戦の主力商品やサービスの好調な販売状況が続く。
		観光名所（役員）	・来客数増加の主要因であった海外客もチャーター便の動向から、秋以降の力強さが感じられない。個人客についても高速道路料金引下げの効果が前年ほど期待できないため、先行きに明るさが感じられない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・今月の伸びは天候による一過性のものであり、景気そのものは依然として不透明感がぬぐえないことから、先行きについて不安がある。
		商店街（代表者）	・今月は売上の増加がみられたが、前年と比べて景気が良くなっているとは思えないため、今後も変わらないまま推移する。
		商店街（代表者）	・3か月後は賞与月の前月であり、ここ1～2年の当該月の客の外出控え及び買い控えが顕著であることを考慮すると、今年も来街者数の減少が見込まれるため、今後の売上増加は望めない。
		百貨店（売場主任）	・現在も残暑が続いており、秋物の立ち上がりも前年の8掛けという状況である。このため、9～10月も残暑、暖冬の傾向が続くことになれば、秋物商戦の動きが非常に鈍ることになる。特に主力のジャケット・コートに関しては、今後の天候状況が懸念される。
		百貨店（売場主任）	・来客数も減ってきているが、今月は客単価が前年比93.2%と前年を下回っている。堅調だった食品も前年比92%となっており、好調なカテゴリーが見当たらないことから、今後についてはやや悪くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・円高や株価下落の影響が出てくる。また、猛暑の影響で秋物衣料の動きが鈍く、秋物と冬物の需要期の間隔が狭くなることで、秋物衣料の販売機会が減ってしまうことが懸念される。
		スーパー（企画担当）	・政局の不安定さ、経済対策の遅れ、株式市場や為替相場の乱調など、消費者の財布のひもが緩む要因は全くといっていいほど見当たらないため、今後についてはやや悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・10月からのたばこ増税にともなう価格改定で、たばこの消費量が大幅に減少することになり、客の来店頻度が減少する。それに付随して、たばこ以外の商品の販売量も減少することになり、売上の苦戦が見込まれる。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー購入時の補助金も終わり、客もかなり前倒しで購入していることから、後は厳しい時期を迎える。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・業界の低迷はどん底であり、顧客の取り込み、奪い合いが更に深刻になる。
		旅行代理店（従業員）	・先行受注額をみると、10月は国内旅行が前年比77%、海外旅行が前年比106%となっており、全体では前年を下回っている。10月末の羽田空港国際線の新規路線就航と円高による海外旅行の活性化を期待しているが、現実としては国内・国際航空路線の縮小・減便により国内・海外旅行の停滞が懸念される。
		タクシー運転手	・当市では、ハイヤー協会加盟のほとんどの会社が10%の減車を実行中であり、当社も8月までに7%の減車を実施している。減車の効果なのか、今月の1台当たりの売上は前年並みとなり、他社もほぼ前年並みであったと聞いているが、経営的には、減車した分、売上が減少しており、他の経費を削減しないと苦しい状況にある。そのため、今後についてはやや悪くなる。
		美容室（経営者）	・政局への不安感が増大しているため、今まで以上に支出を抑える傾向が強まる。
		美容室（経営者）	・基幹産業の米作は悪くないようだが、客の様子からも、来客数の推移からも、それ以外の好材料がうかがえないため、今後についてはやや悪くなる。
		設計事務所（所長）	・良くなっていく兆しが見えていたが、今は失速しているため、今後についてはやや悪くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・最近、経済関係のニュースは悲観的なものが多くなっていることから、消費者のマインドがかなり低下してきている。特に住宅を購入しようと考えている人は経済ニュースには敏感に反応するので、これから少しずつ悪影響が出てくるのが懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	スーパー（店長）	・長期予報では残暑が続くことから、秋冬物衣料品の売上低迷が続く。また、野菜の相場高、農作物への被害が生じることになれば、客である農家の収入減が見込まれ、厳しい状態となる。
		乗用車販売店（営業担当）	・国の政策などによって、一時的に需要が伸長したが、今後はデフレ傾向が強まり、価格競争が激化する。
		観光型ホテル（経営者）	・急激な円高により、国内客の減少をカバーしていた海外客の減少が懸念される。また、国内景気が本格的に回復していないため、国内客の集客状況も良くない。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	金属製品製造業（役員）	・微増ではあるが、住宅着工率が上昇してきているため、今後についてはやや良くなる。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・長期展望が見えず、設備を含めた高額商品の売行きは良くないが、消耗資材を中心に販売量は着実に回復してきている。
	変わらない	食料品製造業（団体役員）	・沿岸海水温の上昇により、水産漁獲物が減少していることから、加工原料の確保不安と価格高騰で採算が悪化している。こうした状況は今後も続く。
		食料品製造業（役員）	・例年、秋に向けて上向く傾向となるが、今年は、引き続きの暑さが予想されていることに加えて、新規の大型案件も見当たらないため、今後も変わらないまま推移する。
		家具製造業（経営者）	・すでに進行している案件が多くあり、今後数か月はやや好調な状態が続く。しかし、最近の急激な円高、株安の悪影響が顕在化するため、全体としては変わらないまま推移する。
		建設業（経営者）	・公共工事については絶対量が大幅に削減されているため、発注が進んでも繁忙感がない。民間工事についても引き合いが少なく、厳しい価格競争のもと、各社が疲弊気味である。以上のことから、今後についても変わらないまま推移する。
		輸送業（営業担当）	・8月発表の農作物の生育状況は非常に順調に推移しているが、今夏は北海道も猛暑のため、今後は生産品にマイナスの影響が出る懸念される。
		金融業（企画担当）	・不振が続いた住宅業界はマンションの在庫調整が進み、住宅着工戸数の増加が見込まれるものの、公共工事の大幅減少で土木建設業界が一層厳しくなっていることから、今後の倒産件数の増加が懸念される。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・農業が堅調であるものの、それ以外の業種は苦戦が続いており、全体としては変わらないまま推移する。
		やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（従業員）
		金属製品製造業（経営者）	・身の回りの状況や、民主党政権の問題を見る限り、今後の景気が良くなるとは思えない。
		建設業（従業員）	・政権が不安定であることから、今後の公共工事の追加発注は期待できない。厳寒期に向かうこともあり、建設関連の景気回復は全く見込めない。
輸送業（支店長）		・最近の円高、株安により、企業心理が非常に冷えてきている。そのため、物流面においても今後の取引量が減ることが懸念される。	
通信業（営業担当）		・円高に対する政府と日銀の姿勢がこのまま継続することになれば、失望感とともに輸出企業を中心に実態業績の悪化が生じることになり、それをきっかけに景況感を更にもう一段押し下げることになる。	
悪くなる	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・公共工事の発注額がこれまで以上に減少すると見込まれる。また、民間工事も伸びが見込まれないことから、今後については悪くなる。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・本来の形の派遣スタッフの募集や業務請負の募集が徐々に増えてきている。また、業種にかかわらず、全体的に新規や久しぶりの求人が目立ってきていることから、求人意欲の力強さが感じられる。
		職業安定所（職員）	・新規求職申込件数は2.5%減少し、3か月ぶりに前年を下回ったほか、月間有効求職者数は3.4%減少し、3か月連続で前年を下回ったことから、今後についてはやや良くなる。
学校〔大学〕（就職担当）		・雇用環境において、新卒の先行き不透明感は強くなるばかりであるが、卒業後3年間までを新卒扱いするなどの方策が検討されている。一方、企業との対応においては、次年度の採用計画を今年度並みと見据える事例が多いが、業界によっては求人状況に回復傾向がみられるとの情報もあり、2012年卒業生を対象とする動きが少しは活発に展開されることが期待できる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・交代の補充がある程度で、増員の動きがまだみられないことから、今後も変わらないまま推移する。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人数は前年末から前年比プラスで推移しているが、国の施策の効果で底打ちから緩やかに上昇しているもので、今後大きく上昇する要素が見当たらない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・今年に入ってから求人が前年を下回ったのは1月と4月だけであり、それ以外の6か月は前年を上回っている。売上も前々年並みにまで回復していることから、求人は一過性的特需ではなく、継続した回復基調にあり、今後も変わらないまま推移する。
		職業安定所（職員）	・景気の低迷から景気全体を引っ張る製造業の求人が伸びてこない。全体の求人では4月以降、前年比が微増しているが、製造業の求人は4月以降、4か月連続で前年を下回っていることから、今後も変わらないまま推移する。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・雇用環境をみると、流通業界の夏商戦も一段落したことから、人材の需要は低位安定で推移する。パート・アルバイトについても冬商戦までは需要の盛り上がり欠ける。いわゆる産業界の閑散期に入り、活力に欠ける展開となりそう。景気動向は政府の対策に大きく左右されることになる。
		職業安定所（職員）	・追加経済対策による効果の息切れに加えて、円高などの影響が徐々に表れることになり、今後についてはやや悪くなる。
	悪くなる	-	-

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		百貨店（販促担当）	・低迷が続いていた婦人雑貨部門、特に衣料品部門の売上が伸びてきている。また、購買を促す提案に対する反応がよく、客足が戻ってきている。
		百貨店（経営者）	・前年にはなかったイベントを行う予定があり、集客、販売の増加が見込まれる。
		衣料品専門店（店長）	・今の時期、婦人服はなかなか数字につながらないが、秋も深まってくれば単価も上がっていくことが期待される。
		家電量販店（店長）	・家電エコポイントの終了が年末に予定されており、駆け込み需要が期待できる。
		高級レストラン（支配人）	・向かいに新規開業したホテルの影響により変わった人の流れの効果はもう少し継続することが予想される。ただ、円高と不安定な現政権の影響など懸念材料もある。
		その他飲食〔弁当〕（スタッフ）	・12月の新幹線の延伸開業に向け、各自治体のイベントが増えてきており、集客増が期待できる。
		観光型ホテル（経営者）	・2～3か月先の予約状況を見ると、前年よりも団体客、特に関東以西の客の予約が目につく。
	住宅販売会社（経営者）	・建築物件の受注は大変好調である。一方、個人向けの住宅の受注に関しては成約に至るまでの期間が長くなっており、今後、新規受注の伸びが期待されるのは3か月ぐらい先になってからである。	
	変わらない	商店街（代表者）	・シャッターが上がるような話が聞こえてきてもなかなかそのとおりならず、逆に閉店のお話さえ聞かれ、中小零細小売業界は打つ手なしの状況が続く。
		商店街（代表者）	・このまま暑い日が続けば、秋物商材に大きな影響が出てきて、場合によっては、秋物商材がそっくり抜けて、冬物の売り出しが始まることも懸念される。また、バーゲンの前倒しが増え、客単価の低下は免れない。
		商店街（代表者）	・婦人服を中心に秋物がだぶつき、好調な夏物と不調の秋物で相殺勘定になることが予想される。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・地元の産業基盤は、工業系は弱小で流通系の中小企業比率が高いことから、価格競争力といった面での伸展はあまり期待できない。
		一般小売店〔スポーツ用品〕（経営者）	・客が必要な物しか買わない現在の状況は、今後も続くことが予想される。
一般小売店〔医薬品〕（経営者）		・残暑により体調不良の人が多くなる時期だが、不景気という意識が非常に強いので、お金をかけて体調管理をする人は少なく、売上には貢献しないと予想される。	
	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・景気の良し悪しにかかわらず、必要なものは購入してもらえない業種だが、以前のように何でもというのではなく、必要なものしか購入しない現在の状態がしばらく続く。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（企画担当）	・為替は円高基調で推移しているため、内需の拡大を大いに期待しているところであるが、GDPは簡単には増えないので、このままの消費状況が続くことが予想される。
		スーパー（経営者）	・暑さが続けば、野菜果物の生育と秋商戦の販売への影響が懸念される。
		スーパー（店長）	・8月の収支結果が良かったのは猛暑の影響だと思われるため、10月以降は好調の波が続くとは思えない。景気そのものの変動はないと予想している。
		スーパー（店長）	・売上がプラスになるような要素が見当たらない。
		スーパー（店長）	・猛暑により、水産物、農産物共に前年と全く違う動きをしている。さんまは前年の50%を下回る売上高のため、今後の漁獲量によっては販売商品を再考しなければならない。
		スーパー（総務担当）	・残暑が10月まで続くとの予報もあり、農水産物などへの悪い影響が、生鮮食品の品質悪化と単価アップにつながることに懸念され、エコカー補助金等の景気政策の効果も薄れることから、消費動向はしばらく変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・現在の好調は天候に依存したものであり、消費者の買い控え意識には変化が見られない。
		コンビニ（エリア担当）	・本県の人口減少による購買力の減退について有効な対策が無く、外的要因による景気向上も見込めない。
		衣料品専門店（経営者）	・10月中旬まで残暑が続くとの予報が出ており、9月からの秋物商戦も期待できず、現在の悪い状況は変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・政局の混迷や日本の景気実態に伴わない円高が続き、先行き不透明な状況であり、特に地方は景気回復の見通しがたたない。また、各種補助金制度が終了した時点で、購買力の反動減が懸念される。
		住関連専門店（経営者）	・不採算部門のカットやリストラによる経費のカットにより体質を変えているが、今後の人口減少等を考えると、明るい希望が持てない。
		住関連専門店（経営者）	・例年であれば秋商戦に入る時期だが、今年は猛暑のため、家具などの耐久消費財の動きが鈍くなることが予想される。また、住宅版エコポイントやリフォーム減税の恩恵はまだ出ておらず、しばらくは現在の状況が続く。
		住関連専門店（経営者）	・個人消費は冷え込んでおり、我慢できるものは我慢して、必要なものはなるべく安く購入しようとする消費者の傾向が見受けられる。急激な売上上昇は見込めず、現在の状況はしばらく変わらない。
		その他専門店 [パソコン]（経営者）	・一部の商品に動きがみられるものの、物販全体を押し上げるような回復は期待できない。
		その他専門店 [食品]（経営者）	・天候が落ち着き、秋の気配が感じられれば動きが出てくると期待している。
		その他専門店 [白衣・ユニフォーム]（営業担当）	・暑さが当分続くとみられ、秋冬物はあまり期待できない。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（営業担当）	・これから石油製品の需要期に向かうが、景気全体が低迷しているため需要を上げるような動きがなく、回復の道筋がみえない。天候次第で需要が左右され、収益回復が不安定な状況が続く。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（営業担当）	・客の購入量に毎週変動がみられるのが気になる。元売りからの価格変動分を商品価格に反映できないので、現在の状況はしばらく変わらないことが予想される。
		一般レストラン（経営者）	・良くなる材料が見当たらないので、来客数が少なく客単価も低い現在の状況はしばらく続くことが予想される。
		スナック（経営者）	・人が出てくる要素も見当たらず、売上は横ばい状態が続くことが予想される。
		観光型ホテル（スタッフ）	・プランによっては客が来ており、客足も秋風が吹けば多少は回復すると思うが、前年比を上回るのは厳しい状況が続くとみられる。
		観光型旅館（経営者）	・例年9月は閑散期であり、10月、11月の紅葉期も2週間程度しか集客が期待できない。さらに、夏の猛暑により紅葉の色づきが悪くなる傾向があるなどの不安材料もあり、このまま低調な状態が続くことが予想される。
		観光型旅館（スタッフ）	・個人客の予約状況は、休暇の多様化やネットの普及から直前まで把握しきれず、団体客の動きも活性化は期待できない。
		都市型ホテル（経営者）	・単価の下落に歯止めがかからないことが予想される。来客数については、料飲施設において特にランチタイムの出足が鈍くなっているが、暑さが落ち着けば改善されるのではないかと期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル(スタッフ)	・8月下旬のチャペルのリニューアルオープンにより、この先、プライダルの獲得数が伸びることが予想されるが、同時期に競合のゲストハウスがオープンするので、一人勝ちの状況には持っていけない。
		都市型ホテル(スタッフ)	・売上の柱となる婚礼件数が全く伸びない上、円高や政治不信等により一般宴会も期待が持てない。
		旅行代理店(店長)	・個人旅行の主力商品となる交通と宿泊等の企画商品の先行受注は回復しないが、海外旅行は円高により相談件数が増えている。総取扱高で比重の高い国内旅行で回復しなければ、全体の取扱額は減少となるが、団体旅行の先行受注が比較的順調なため、販売額は変わらず推移する。
		旅行代理店(従業員)	・政府が景気対策を行わなければ、現在の状況は変わらない。
		タクシー運転手	・仕事がないという話をよく聞くが、そのような状況が続く限り、景気を上向きにさせることはできない。
		通信会社(営業担当)	・今後、少しずつ新幹線延伸開業に向け盛り上がり期待できるものの、それ以外に上向き要素が見当たらない。
		通信会社(営業担当)	・景気回復に影響を与える材料は見当たらない。
		通信会社(営業担当)	・国の景気対策が目に見える形になっていない。
		観光名所(職員)	・明るい材料は見あたらないが、これ以上の落ち込みもないような状況にあるので、今よりは悪くならない。
		やや悪くなる	
一般小売店[雑貨](企画担当)	・現在進行している円高や株安が、3~6か月先に個人消費を抑制するあるいは冷やす要因になることを懸念している。		
百貨店(売場主任)	・今後、気温が例年より高めに推移する予報が出ているので、秋冬物の動きがどうなるのか不安である。		
百貨店(広報担当)	・急激な円高、株安、残暑などのため、厳しい商戦が予想される。		
百貨店(営業担当)	・9月も気温が高い傾向がしばらく続くため、秋物の動きが鈍くなり、販売する期間も短くなると予想される。		
百貨店(経営者)	・暑い夏の影響で、消費者の意図しない出費がかさんでおり、その反動による消費の落ち込みが予想される。		
百貨店(売場担当)	・9月以降も暑さは続くと思われるなか、担当する婦人服部門においては、夏物在庫はなく、秋物は動きが鈍いため、来月の秋物商戦は厳しくなることが予想される。秋物が売れずに冬物へと流れていくことを懸念しており、9月も着用できる秋物やセールで対応していく。		
スーパー(店長)	・10月からたばこ増税を控え、特需の反動減が気がかりである。		
スーパー(店長)	・高単価商品の売行き不振は今後も続くことが予想される。また、野菜の不作による高値予想が悪い状況を作り出すことが懸念される。		
スーパー(店長)	・残暑による一般家庭での光熱費の増加に加え、節約ムードが高まることで、景気が後退することが懸念される。		
スーパー(営業担当)	・家電エコポイントの駆け込み需要による家電業界や製造業の好調が予想されるが、このまま円高の状態が続けば、製造拠点の海外への移設等により地域の製造業へ与えるダメージが予想される。		
コンビニ(経営者)	・たばこ増税に伴い、9月は駆け込み需要が期待できるが、10月以降は禁煙者が増加することも予想され、かなり落ち込むことが懸念される。たばこは売上の18~20%を占めており、かなり厳しい状況になる。		
コンビニ(エリア担当)	・今夏の猛暑も秋口以降は落ち着くとみられ、売上は前年比でみると縮小に向かうことが予想される。		
コンビニ(エリア担当)	・10月からのたばこ増税の影響で、来客数は減る見通しである。		
コンビニ(店長)	・建設関係の客が減っているのに加え、客はより単価の低いものを購入する傾向にあり、状況が好転する見通しがたたない。		
衣料品専門店(店長)	・残暑が厳しくなれば、秋物の動きが鈍くなることが予想され、厳しい秋冬商戦を迎えるのではないかと危惧している。		
衣料品専門店(店長)	・長期予報どおりに残暑が続くようであれば、秋物の立ち上がりが遅れ、販売期間が短くなる、又は後ろにずれ込み苦戦することが予想される。		
衣料品専門店(店長)	・9月中旬まで猛暑が続くと秋物の立ち上がりが遅れ、売上に大きな影響が出てくることが予想される。		
衣料品専門店(総務担当)	・現在の好調は季節要因によるところが大きいいため、この先も続くとは考えにくい。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		家電量販店(店長)	・政治の不安定と円高による株価の下落が続いており、景気が上向き見通しがたない。		
		乗用車販売店(経営者)	・エコカー購入補助金により需要を先食いしており、今後は新車の投入ということだけでは売れなくなることが予想される。		
		乗用車販売店(経営者)	・10月に投入される新型車でカバーはできるものの、エコカー購入補助金が終了する10月以降の受注の落込みは避けられない。		
		その他専門店[酒](経営者)	・天候が影響している現在の勢いは一過性のものに過ぎず、さらに、10月からはたばこの値上げが販売量及び売上に大きく影響することが懸念される。		
		その他専門店[靴](経営者)	・残暑がきつく、季節商材に例年並みの動きが期待できない。		
		その他専門店[酒](営業担当)	・円高等の様々な不安要素が消費者の生活防衛意識を強めており、財布のひもは一層固くなることが予想される。極端な形でないにしても、ゆっくりと客単価の下落と来客数の減少が進むと考えられる。		
		一般レストラン(経営者)	・政府による対策は何の手も打たれていないし、景気が良くなる要素が見当たらない。		
		一般レストラン(経営者)	・伝統的なやり方で消費者の要望にこたえるのは難しくなっており、現行の営業内容を変えながら様子を見ていく状況が続く。		
		一般レストラン(支配人)	・円高、株安の影響で企業業績が落ち込み、年末にかけての宴会需要の更なる悪化が懸念される。		
		都市型ホテル(スタッフ)	・新規開業した競合の大型施設へ客が流れており、先々の予約状況も厳しくなっている。		
		通信会社(営業担当)	・海外市場が更に悪化する傾向にあり、国内市場にも影響が出てきているため、販売量の落ち込みが予想される。		
		通信会社(営業担当)	・円高の影響等による先行き不安で、リーマンショックのときのような状況になることを懸念している。		
		通信会社(営業担当)	・エコカー購入補助金の終了等、政府による景気対策も一服感がある。景気回復への期待感強いものの、守りの姿勢を数年維持している状況から、好況に転じる要素が見当たらない。		
		遊園地(経営者)	・前年のような9月の大型連休がない分、実績は上がりにくい、イベント等を計画して2年前並みを確保することを目指している。		
		美容室(経営者)	・内需拡大の施策が実行されていないことや円高の影響により、現在の状況がしばらく続くことが予想される。		
		設計事務所(経営者)	・9月以降は例年受注量が減っているが、今年は一層厳しくなると予想される。		
		悪くなる		商店街(代表者)	・客足の回復に打つ手もなく、先行きに不安を感じている。
				商店街(代表者)	・消費者の節約志向は強く、買い控えの傾向が続くことが懸念される。
				一般小売店[酒](経営者)	・10月からのたばこ増税による売上の落ち込みが懸念される。
				スーパー(経営者)	・物価の下落、デフレ及び円高の進行により、販売量、販売額の低下が懸念される。
コンビニ(エリア担当)	・商品の販売動向を見ると、現状の売上増は猛暑によるものであり、景気が良いことによって客の購買意欲が上昇しているとは考えにくい。過剰な円高、株安等、経済全体の先行きも不透明であり、景気が自然に良くなっていくようには感じられない。				
乗用車販売店(経営者)	・エコカー購入補助金終了後、30~40%前後の反動減が予想されている。また、昨今の政局不安、円高、株安等によって、客の様子もずいぶん変わっている。新車販売においては、エコカー減税だけでは、十分なお買得感を訴求できず、需要喚起にはつながらないと考えている。市場は乱れ、各販売店の体力消耗戦になるのではと懸念している。				
乗用車販売店(経営者)	・補助金効果によるエコカー需要が大きかった分、反動減も大きくなると予想される。				
乗用車販売店(経営者)	・エコカー購入補助金の終了による新車販売の落込みが懸念される。				
乗用車販売店(経営者)	・エコカー購入補助金の終了により、購買意欲が低下する。				
乗用車販売店(経営者)	・納期の面で補助金に間に合わない車種が出てきており、そういった車種は客の検討対象から外され始めている。				
乗用車販売店(従業員)	・エコカー購入補助金の終了後は需要が落ち込むことが予想される。				

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向 関連	良くなる	食料品製造業（総務担当）	・猛暑の影響も落ち着くことに加え、需要期に入るため、例年並の売上が期待できる。
	やや良くなる	農林水産業（従業者）	・前年は果樹全体が非常に安値だったが、この夏は猛暑で桃が高値で取引されており、農協出荷の清算書に期待が持てる。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・現在、秋冬に向けた商品の販売を始めており、前年より多く出荷しているが、残暑が厳しければ、販売量の増加には結びつかないことも予想される。
	変わらない	農林水産業（従業者）	・天候に恵まれ米は豊作の見通しだが、一方で農協買取価格が下がることが予想される。
		食料品製造業（総務担当）	・現状が好転する材料が見えない。
		木材木製品製造業（経営者）	・関東を中心とした住宅需要が2～3か月は順調と判断されるため、現在の状況が続く。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・新しい商品の開発はしているものの、販売までには至らず、プラスに転じる要素が見当たらない。
		建設業（企画担当）	・年内の工事案件は、現状の件数が見込まれ、2～3か月先の状況は変わらない。
		広告代理店（経営者）	・新幹線延伸開業に関連し、印刷物は若干増えるが、全体的なボリュームダウンや価格下落との差し引きで、結局は変わらない見通しである。
		公認会計士	・円高やデフレ傾向、公共工事の減少、消費者の購買意欲の減少といったこともあり、景気回復の材料が見当たらず、この先2～3か月で改善するとは思えない。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・飲食店の低価格化が進み、単価の圧縮が顕著である。販売量は増えるものの売上は増えず、中規模業務用小売店の経営を圧迫する状況が続く。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・旅行関連の業種では円高が良い影響を及ぼしているが、輸出関連はかなり厳しい状況になると予想される。
		金属工業協同組合（職員）	・円高の輸出への影響から更なるコストダウンの要請が懸念される。また、正式発注から納品までが超短納期となっており、その対応コストが大きいいため、受注に結び付きにくくなっている。
	やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・当社は地元客よりも県外客の割合が高いため、9月の大型連休もなく、E T Cの割引効果も薄れてきた今年は、前年ほどの来客数は見込めない。
食料品製造業（経営者）		・9月の大型連休で大きく売上が増えた前年に対し、飛び石連休が多い今年は、前年ほどの売上は期待できない。	
電気機械器具製造業（営業担当）		・大手でさえ、忙しいが利益につながらないという状況にあるなかで、中小は更に厳しい状態になっていくことが予想される。	
電気機械器具製造業（企画担当）		・会社としてはまだ直接の影響は受けていないが、海外向け製品も多く取扱っているため、今後は円高、株安の影響により、業績の悪化が予想される。	
建設業（従業者）		・公共投資は減少し、民間設備投資は新しい検討案件がないため、受注減少が懸念される。	
通信業（営業担当）		・今後、既存契約の更新における入札案件の落札には、かなり厳しい対応を迫られる可能性が出てきている。	
広告業協会（役員）		・猛暑による消費の減退で、広告費を抑える大型小売店なども出てきており、先行きの悪化が懸念される。	
広告代理店（経営者）		・流通関連はこの暑さで秋物の動きが鈍く、携帯電話など通信関連も秋に向けて目立った動きが見られない。	
新聞販売店〔広告〕（店主）		・消費税の問題で消費者の財布のひもが固くなっており、売上の減少は続く。小規模零細企業、特に自営業者への打撃は計り知れず、景気が良くなるとはとても思えない。	
経営コンサルタント		・政治の混迷や異常気象、株安、円高など、景気を悪くする要因が続く。	
悪くなる	一般機械器具製造業（経理担当）	・自動車部品については、エコカー購入補助金の終了により、国内需要が急激に減少することが予想される。加えて、円高が続けば輸出環境は更に悪化し、業績に悪影響を及ぼすことが懸念される。	
	コピーサービス業（経営者）	・今回の円高により、民間経営、特に輸出にかかわる製造業等は悪くなる可能性がある。民間経営が悪くなれば我々の業界も悪くなり、見通しは暗い。	
雇用 関連	良くなる	人材派遣会社（社員）	・求人継続して行っている企業や新卒の採用を再開する企業が増えており、今後動きが良くなることが期待される。
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・有効求人倍率が、一進一退を繰り返しながらも0.3倍台になるなど、明るい兆しがみえつつある。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・円高の影響もあり、現在の状況が好転すると感じる材料が見つかからない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（社員）	・求人数、雇用数が増えない限り可処分所得は増えず、景気回復は望めない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・民主党の党首選等で政治的にも空白状態が続いており、そのあおりで物が動かなくなっていることは否めない。ただ、求人に関していえば、現在底状態になっており、今後、多少は上向くことが期待できる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・暑い夏が続く、観光、サービス業等の関連業種はプラスに働いているようだが、製造業などは相変わらず派遣中心で正社員の募集は少ない。円高株安の動きもあり、県内輸出企業関連の先行き不透明な状況はしばらく続くことが懸念される。
		職業安定所（職員）	・製造業からの求人が増加傾向にあるものの、先行きに対する不透明感からか、雇用形態は有期雇用が多いなど、慎重な姿勢が続いている。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は前年同月比で2か月ぶりに減少に転じ、月間有効求人数は相変わらず減少傾向が続いている。有効求人倍率はここ数か月緩やかに下降傾向が続いたが、一転上昇している。今後の動向について予断を許さない状況であり、注視していきたい。
		職業安定所（職員）	・休業などの雇用調整が引き続き実施されることが予想される。
		職業安定所（職員）	・有効求人数がリーマンショック前と比べ圧倒的に少ない。加えて、有効求職者数も依然として多く、失業期間が長期化している。
		職業安定所（職員）	・有効求人数は4か月連続で前年を上回っているものの小幅な伸びにとどまっている。短期の求人が多く、常用が増加していないことから、この状態がしばらく続くことが予想される。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・求人企業と求職者の意識の乖離がミスマッチや士気の低下につながっており、企業全体としての競争力低下に拍車がかかることが懸念される。
		アウトソーシング企業（社員）	・同業他社も同じような状況にあり、回復の兆しがみえない。
		職業安定所（職員）	・新規求人は増加しているものの増加率は低調であり、新卒者向けの求人は低調である。
		職業安定所（職員）	・不況により節約ムードが続いているため、各種販売業においては、主力商品の売行きが前年から悪化している事業所が多く、回復の兆しがみえない状況が続く。
	悪くなる	職業安定所（職員）	・エコカー購入補助金の終了に伴い、自動車関連が落ち込むとの見方が強くなっており、景気全体の落ち込みが懸念される。
		人材派遣会社（社員）	・次期国会で労働者派遣法の改正が具体化されることにより、企業における外部人材の活用意欲は更なる減退が予想される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・取引先から仕事縮小の打診があり、受注の落ち込みが懸念される。

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（経営者）	・一番はたはこの値上げだが、残暑もまだまだ期待できそうだし、秋の観光シーズンや地元の祭り、花火大会とイベントが目白押しなので、数字は期待できる。
		家電量販店（店長）	・エコポイント制度終了と共に、年末に向けて駆け込み需要が予想される。エコポイントの動向で販売量は左右される。
		一般レストラン（経営者）	・来客の中で予約客が特に増えていることが明るい材料である。
		テーマパーク（職員）	・現状維持に加えて、冬場における新規投資の関連イベントによる集客効果が期待できる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・今月と同じではこの先真っ暗であるが、暑さも収まるだろうし、新製品が出てくれば少し良くなる。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・夏商戦は終わるが、秋からは年末商戦で、エコポイント関連商品が非常に盛り上がる。
		衣料品専門店（統括）	・秋に向けて催し物を実施するところが多いため、今後1、2か月は少しは期待できる。
		自動車備品販売店（経営者）	・かなり長い期間消費が低迷しているため、それが回復した後は、ある程度の厚みを維持していくであろうから、今までよりはわずかに良くなっていくはずである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		観光型ホテル(営業担当)	・今年度の近隣観光地への来客数は前年比で減少しているものの、秋から冬にかけては、県を挙げての観光キャンペーンもあることから、来客増に期待している。
		通信会社(経営者)	・9月からの販売量は例年上がり、既に顧客からの見直し依頼等も増えている現状から、来月以降の販売量は上昇する。
		一般小売店[家電](経営者)	・仕事が出てきたところと減少しているところ様々で、全体的には変わらない。エコポイントも消費者に馴染んできたようで、ポイントのあるうちにテレビの買換えを意識しているようであるが、価格競争が激しく小売業者は依然厳しい。
		百貨店(営業担当)	・売上は前年同月比マイナス基調で推移している。円高、株安の影響は今後も出てくる。
		百貨店(営業担当)	・夏場は猛暑により夏物関連に動きがあり、売上也好調に推移して来たが、厳しい残暑が続くとされる9月の秋物動向が懸念される。
		百貨店(販売促進担当)	・婦人服等、一部については回復基調にあるが、消費全体を押し上げる要因となっているわけではない。景気の底打ち感はあるが、プラスに転じる要素は現時点では見当たらない。
		百貨店(販売促進担当)	・輸出関連でけん引されてきた明るい兆しが円高により、今後の見通しを大きく変える懸念材料となっている。円高が長引くことになれば悪影響ばかりが報道され、その景況感の悪さから個人消費にも悪影響を及ぼす可能性は否めない。
		スーパー(経営者)	・小売の競争状況は変わらない。
		スーパー(総務担当)	・社会全体に安定感がなく、客の動向を見ていても、安定してゆっくり買物をするのではなく、チラシを打ったら、安いものがあれば買うという様子で、特に大きな変化はない。
		スーパー(経営企画担当)	・デフレや勤労者の所得低迷という経済の基調は変わらないし、円高の不安も考えると良くなるとは考え難い。
		コンビニ(経営者)	・よほどのヒット商品でもない限り、変わらないと考える。
		コンビニ(店長)	・夏は食欲の関係であまり固形物が売れなかった。これから先も、客は買うものを選択することが顕著になると考えられるため、結局変わらない。
		衣料品専門店(店長)	・秋冬商材の実需時期であるが、円高や株価下落など日本経済が低迷する流れの中で、消費マインドはますます低下して、景気が良くなるとは考えにくい。
		衣料品専門店(販売担当)	・先月は幾分、良くなるような感触があったが、今月に入ると、財布のひもは固い状況にある。9月一杯、真夏の状況が続くという予報もあるが、これも悪い影響を与えている。
		乗用車販売店(販売担当)	・輸入車に関しては良くなる要素が全く無い現状で、新車が売れない分、メンテナンスの修理関係で売上を補っていくパターンは当分の間変わらない。中古車はそこそこ出ているが、新車が売れず、よほど景気が良くなる要素でもない限り、全く変わらずこのまま推移していく。
		住関連専門店(開発業務責任者)	・将来に対する不安材料が多く、消費につながらない。また、円高や株価の低迷もある。
		住関連専門店(仕入担当)	・9、10月も暑さが続く予報であり、冬物の売れ方は遅れる見込みである。それに代わる商材は見つからず、デフレ傾向も当面続くと思われるので厳しい見通しである。
		都市型ホテル(支配人)	・一般客の動きは若干悪くなると思うが、新空港のオープンによってアジアからの団体が増えているので、相殺されて変わらない。
		通信会社(総務担当)	・企業の変動にかかわらず、先行きの不透明さから家計の動向は低迷している。
		遊園地(職員)	・8月度の集客は前年を上回っているが、一般家庭の所得減少によるレジャー支出抑制の影響は依然大きいものと予想され、今後についても楽観視はできない。
ゴルフ場(業務担当)	・2～3か月後は引き合いが結構きており、土日のコンペもリピーターの引き合いがきているので、前年並みに持っていきける。ただし、単価は若干下回る。また、2～3か月後の早期予約による割安料金への反応が敏感に出ているので、売上が伴っていくか少し微妙なところである。夏の猛暑の関係で、総体の売上も落ち、入場者も少なくなっているのが現状であるが、今後秋のシーズンに向けて持ち直してくる。		
美容室(経営者)	・最近、近場のゴルフ場が倒産したことを取引先のゴルフ場の担当者から聞いた。食事、ジュース付のプレー代も下げているが、思うように客が入らないことから、まだ節約志向は続いている。		
その他サービス[清掃](所長)	・円高や株価の新聞報道等を見ても景気回復の状況にはなく、身近なことでも給料が増える状況にも無いため、消費等を抑える傾向は変わらない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
やや悪くなる		その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	・当商業施設内の映画館が上向きに転じており、また、ホテルにおいても客室の稼働率が例年より良い状況で、それらの来客数が当駐車場に反映され、利用客数は上向きに転じているが、単価が横ばいなので、変わらない。
		設計事務所（所長）	・いろいろと廻っているが一向に仕事が無いと下請から聞いている。確かに町にクレーンは見えないし、中心街からは、また有力店舗が撤退している。撤退は今年6店舗目である。
		住宅販売会社（経営者）	・デフレ現象が止まってくれないことには不動産価格も上がらないし、取引も活発化しない。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅エコポイントやフラット35Sなどの政策の効果が多少は感じられるものの、業界全体の厳しさは変わらない。
		商店街（代表者）	・秋の観光シーズンに向けて、心配の種である野菜、果物、きのこのできは異常気象のために良くない。
		一般小売店〔乳業〕（経営者）	・工業団地内企業の厳しさが漏れ伝わってくる上、消費意欲の伸びる要因は見当たらないので、消費はまだまだ下がっていく。
		百貨店（総務担当）	・当店は市内の昔の繁華街の一角にあるのだが、現在では閉店している商店が多く、歯抜け状態に歯止めが掛からない。高速インターチェンジに近い別エリアの商店街では、新店舗ができるなどますます活性化しており、客は郊外に出向いている。当店には人気商品が1銘柄あるが、それがあと何か月かで入荷できなくなった場合を考えると、ますます先行きは不安である。
		百貨店（営業担当）	・円高と株の下落について考えると、非常に厳しい。今後は秋冬の展開になるので、いかに店に来てもらう行動をするかによって、また結果が違ってくる。
		スーパー（店長）	・近隣の大型スーパーが安売り店に業態変更して開店する予定があるが、当店の競争に弱い体質が出そうで、取り戻すには3か月はかかる。
		スーパー（総務担当）	・円高による輸出関連の落ち込みが懸念される。
		スーパー（統括）	・メモを持った男性客が、5～6月ごろは減少していたものの、この1か月ほどでまた増えてきており、衝動買いを抑制する傾向が顕著である。先行きの不透明感に対する生活防衛への対応が素早くなってきている。
		コンビニ（経営者）	・10月からたばこが値上げされるので、それに向けて9月には仮需要があるが、10月以降は大分需要が落ちてしまうのではないかと懸念している。それをカバーできるものが今のところ見当たらない。
		コンビニ（経営者）	・たばこが10月から増税で値上がりするので、たばこを買いに来る客が減り、景気はやや悪くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・若い人の車離れと平均年齢の上昇により、自動車の販売はより一層厳しくなる。
		乗用車販売店（販売担当）	・客は9月までの補助金を目当てに車を購入しているが、その陰りが見え始めている。メーカーは補助金が切れた後のことを考えて、独自の販促をやっているが、補助金がなくなる2、3か月後には、かなり販売量が落ち込む。
		高級レストラン（店長）	・实体经济で回復の実感は全くなく、円高、株安など市場も不安定であり、悪化の要因しか見当たらない。
		一般レストラン（経営者）	・秋は宴会予約が少なく、売上減少時期である。加えて景気動向が心配なため外食を控える傾向である。
		都市型ホテル（経営者）	・自動車産業及び電気産業に依存した町であるため、円高の影響により以前に増して下請いじめが行われ、現在より厳しくなるのではないかと予想している。
		旅行代理店（副支店長）	・為替相場、株価の下落は、レジャー需要を引き下げる感がある。通常、円高になれば、海外需要の大きな伸びに期待できるが、それ以上に国内景気の冷え込みのほうが大きい。
		旅行代理店（副支店長）	・円高、株安傾向であるため、輸出企業のダメージが心配である。秋から冬に旅行を計画している企業や個人に受注のぼらつきがあり、円高は海外旅行の受注が増加すると言われていた。ここに来て先行き不透明感が強まりストップし始めた。国内旅行は猛暑のため集客が悪く受注への期待が薄い。
		ゴルフ場（従業員）	・来場予約が昨年よりも減少している。
ゴルフ場（支配人）	・長期の天気予報によると9月は残暑が続くことから、依然として客足は遠のいている。また、予約のスピード感が無くなり、近隣のゴルフ場では低価格化が依然継続し、デフレスパイラルが続いている。		
設計事務所（経営者）	・これといって景気が良くなる材料もなく、最近の状況からみればマイナスの方向になる企業のほうが多い。		
設計事務所（所長）	・世界的な経済悪化と円高、株安が追い討ちを掛け、今よりもっと悪くなる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	住宅販売会社（従業員）	・猛暑による一時的な別荘見学者の増加はあるものの、購入には至らない事例が大半であり、高額消費の低迷は続く。
		住宅販売会社（経営者）	・贈与税の控除が緩和されているが、これも一時的なものであり、抜本的にデフレが脱却できない。さらに悪い景気になるような印象さえある。
		コンビニ（経営者）	・7月末から猛暑が続いており、来客数も大分増えてきたが、現在の円高、株安が経済を非常に悪くするので、今後は悪くなる一方である。
		コンビニ（店長）	・たばこの大幅な増税が決定しているため、売上は現在、比較的好調に推移しているが、10月にはこの反動が大幅に出ると考える。
		衣料品専門店（経営者）	・商店街の集客力があまりにも無くなってきている。商店街の再開を考えるが、なかなか集客増に結び付かない。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー購入補助金が終了するため、悪くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・エコカー購入補助金終了の反動で、来客数、販売量が減少してしまうため、悪くなる。
企業動向関連	良くなる	一般レストラン（経営者）	・一部に良い企業があると思うが、ほとんどの中小企業は良い経済状況とは言えない。異業種の人から話を聞いてもそういう話が聞かれるので、良くなる傾向は全くない。
		食料品製造業（営業統括）	・9月に入ると新酒が出回ってくるので、業界全体が活性化してくる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・建設機械の部品は最盛期の10分の1まで下落したが、現在は35%ぐらいまで回復している。ただし、エコカー補助金が終了した後の状態がどうなるのか不安が残る。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・年末商品の受注見込みは多少あるが、最近の円高傾向も手伝って、取引先店舗では海外客の需要も減少気味である。新商品の投入も試みているものの、販売の見込みは予想すら立たない状態で、大変厳しくなる一方である。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・明るい見通しが全然立たない。
		金属製品製造業（経営者）	・仕事が安定しておらず、7、8月はまあ良かったが、9月は仕事が少なくなり、10月にはまた戻ると得意先から言われている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・品物が売れないし、良いと思うことが特に無い。
変わらない	変わらない	輸送用機械器具製造業（経営者）	・このところ若干落ち気味であり、受注量等は2、3か月低調なまま変わらない。
		輸送業（営業担当）	・景気回復の材料はなかなか見つからないが、残暑で時期が多少ずれたとしても、季節商材等の入替は行っているので、例年の物量は確保できそうである。しかし一方で、各荷主から運賃値下げ等の見積り依頼も出ており、取引の無い所も多く出てきている。いかに安い所を見つけるかという状況になっており、連鎖的に経営が厳しくなってくる。
		広告代理店（営業担当）	・これ以上悪化しようがないくらい、地方広告業界は冷えている。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・最近のマンション販売チラシでは、1千万円を切る販売価格物件も数件見受けられる。これを目玉商品と見る見方もあるが、資金面で売り急いでいるとの情報もある。首都圏のマンション事情と若干異なるが、経済政策が見えない、回復の実態感がない、というのが大方の話である。
		経営コンサルタント	・異常な円高傾向の中で、輸出企業依存型の中小下請企業の先行きは危うい。これに対し、内需型企業と環境関連企業には一部設備投資や販売活動などに緩やかな動きがある。
		社会保険労務士	・今回の円高により、好調な輸出に支えられていた売上部分が不透明になって来ている。
		司法書士	・先行きに向かっての事業相談があまりないので、少なくとも良くなることはない。
		食料品製造業（製造担当）	・景気の先行き不透明感と、円高の日本企業における差損によりじり貧になり、企業経営もかなり厳しくなり、物の売れ方が鈍くなる。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・相変わらずの薄利である。
		化学工業（経営者）	・受注がなく、メイン商品の10月以降の生産予定が組めない。改めてダイレクトメール等で顧客にアピールしているが、反応は極めて鈍い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般機械器具製造業（経営者）	・中国向けの建設機械用部品の仕事が好調であるが、他の分野で仕事の伸びは思いのほか良くない。9月から自動車メーカー各社の生産調整が予定されていることから、全体としてはやや悪くなる傾向にある。
		電気機械器具製造業（経営者）	・自動車は恐らく、9月中ごろくらいまで高原状態が続き、10～12月は落ちていくと考える。他の部署の仕事であるが、10、11月前後に円高の余波が来て、値下げもしくは受注減になると考える。コスト競争では限界に来ており、コストダウンはきついで、相当苦しくなる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・先行きになると不安が大きく、周りの同業者も先が読めないと懸念している。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・主力メーカーからのコストダウン要請が非常に強くなっている。受注量はある程度確保できるが、収益は悪化傾向にある。今後の受注量確保についても輸出が主力であるから、非常に危機感を持っている。
		その他製造業 [宝石・貴金属]（経営者）	・OEM中心の宝飾製造会社の中には、大手からクリスマス用の商品発注があり、売上也回復基調にある、というところもあるが、一般の小売店舗では在庫調整がすでに終わっているにもかかわらず、販売不振から仕入意欲がなく、また秋口に対しても悲観的である。宝飾業界全体の盛り上がり期待できない以上、回復は難しい。
		金融業（役員）	・取引先には製造業が数多くあるが、輸出関連業種で最近の円高が収益性の圧迫として悪く影響しそうだ。
		金融業（経営企画担当）	・円高の影響が製造業を中心とする輸出産業のみならず、観光業等への国内業種にも及ぶことが懸念される。
		金融業（調査担当）	・円高進行で鈍化の動きが早まっていると見られる。特に製造業の輸出関連業種への影響が懸念される。
		金融業（総務担当）	・契約の見直し、解約による売上減少が予定されているので、見通しはあまり良くないと取引先が話している。
		その他サービス業 [情報サービス]（経営者）	・現在の引き合い状況からみて、12月末までは厳しい状況である。引き合いは多いが、先延ばしされている案件が多い。客も投資に慎重である。
悪くなる		食料品製造業（経営者）	・円高で輸入品、特に食品が安くなり、国内で一層デフレが進むと、国内農産物にも打撃を与え、国内自給率アップがますます難しくなる。また、製造業でも海外に拠点を移せる企業は本気で移り更に国内経済が悪くなる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・ここにきての円高、株安による更なる景気後退により、仕事量が減少し、それに伴う価格競争が一層激化するのではないかと懸念される。
		不動産業（経営者）	・個人貯蓄などがだんだんと出尽くす方向に行くような気がするし、円高への施策の方向性が見えないので、良くなる材料がない。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（管理担当）	・派遣契約終了により取引が終了すると思っていたが、請負にシフトして契約が継続しているため、やや良くなる。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・仕事はあちこちに出るのだが、人数が少なく短期的で、将来性がない。
		人材派遣会社（社員）	・重要な取引先については当然予算立てをしているが、前年を少し下回る程度の予算立てをしているところが多いようである。基本的に予算立ては前年同月比ベースであるので、良くなる材料もなく、このまま推移していく。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・極端な円高は良くなりつつある製造業にも打撃であり、派遣社員などの募集に慎重になる。
		職業安定所（職員）	・主要産業の製造業は、前年同月比115.8%と増加しているが、一般とパートの割合は、前年同月とほぼ同等の6対4の割合である。生産の回復が雇用情勢の改善をけん引していると考えられるが、本格的な回復にはしばらく時間を要する。
		職業安定所（職員）	・雇用調整助成金について、活用人数、活用日数は減少傾向にある。ただし、申請企業数は前月同様に推移し、秋からの活用相談が見られるようになっている。
		職業安定所（職員）	・求職者数は落ち着きを見せているが、求人数がいまだに鈍い動きのまま、企業側の採用意欲の高まりが表れていない。
		学校 [専門学校]（副校長）	・例年以上に大学卒業見込の未内定者数が多いと感じる。中小企業で活発に求人活動を行っている企業もあるが、求職者とのミスマッチもある。求職者のより好み、企業の求める人材の育成なども必要である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	人材派遣会社（経営者）	・夏物衣料関係が思ったより伸び悩んできている。秋物についてはまだ分からないが、見通しとしては横ばいか若干落ちるといふ周辺企業の様子である。野菜の高騰もあるので、この辺りも消費にかなり影響を及ぼすと考えるため、下降気味という見通しを立てている。
		職業安定所（職員）	・事業所に連絡を取っても、求人が出て来ず、求人開拓に回っても、パートは多少あるが、正社員の求人は本当に減っている状況にある。これは、将来の不安要素が多いためと思われる。
		職業安定所（職員）	・管内の主要産業は、産業機械や自動車の輸送用機械器具製造等であり、これらが円高等によって輸出等の影響を受けた場合、悪くなる。現在はフル稼働している企業でも受注量は減少していく。
	悪くなる		

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	旅行代理店（従業員）	・前年同期比120%で推移しており、また、前々年比でも同等もしくはそれよりもプラスで推移している。羽田の国際線滑走路枠が増えるため、相当数の受注が見込まれている。
	やや良くなる	一般小売店〔家電〕（経理担当）	・12月まではエコポイントがあるので少しは売れる。エコポイントは申請をしてからポイントが戻ってくるまでの時間が掛かり過ぎるので、予定が分からず困っている。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・8月はあまりに暑すぎたので客が減ったが、客の流れは非常に良いので、快適な陽気になれば良くなる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・今年の夏は暑くて客の購買意欲がないし、外に人が出てこない。これから先涼しくなってくれば、少し購買意欲もわいて景気も良くなってくる。
		百貨店（販売促進担当）	・高額品の動きが鈍くなっているが、猛暑の反動等もあり、基本的には上向きになっているので、やや良くなる。
		スーパー（ネット宅配担当）	・客数が落ちていないので販売努力で売上は伸ばせる余地が十分ある。低単価の日替り販売商品は数量が落ちているが、総菜を中心とした高粗利カテゴリーの伸長により利益改善が望める。
		コンビニ（商品開発担当）	・もうしばらく猛暑の影響が続きそうなので、やや良くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・残暑の中でも秋物アウターの出だしが非常に良い。秋物が大変良いので、秋冬にかけて前年はクリアできると非常に期待している。
		家電量販店（統括）	・やや良くなると判断したが、エコポイントの延長が決定すれば12月の特需は無くなる。政局が安定し、有効な経済対策が打たれなければ厳しい。
		家電量販店（営業統括）	・エコポイント制度の終了が来年3月まで延長されることで、年末の駆け込み注文は若干分散されると考えるが、テレビを中心に買換え需要は最終段階に向かって進んでいる。景気の先食いであることは否めない状況であるが、来年3月までは販売数量拡大傾向を引っ張ることができるかと確信している。ただし、客の販売価格に対する厳しい要求が利益を引き下げているのも事実である。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・売上は天気の影響を受けやすいので、このまま晴天が続くと良くなる。昨年は新型インフルエンザ騒動が一区切りして落ち込んだ時期であるが、今年は夏ばてがひどく、体力低下により風邪を引きやすくなると思うので、カウンセリングでケアを促して、しっかり伸ばしていきたい。
		高級レストラン（副店長）	・予約推移より考えると前年よりはやや良くなる。
		一般レストラン（経営者）	・少しずつ景気が回復しているような気もする。円高等で景気がどうなるか不安定なところもあるが、客も少しずつ戻ってきており、多少の余裕が見受けられる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・スカイツリー効果で宿泊の稼働率が伸びていると共に、スカイツリーの見える会場での婚礼受注が増えている。
		旅行代理店（従業員）	・行楽シーズンを迎えるため、10月以降の国内団体旅行の問い合わせや、予約件数が増えている。
旅行代理店（支店長）	・法人関係は秋の旅行シーズンになり、社員旅行、研修旅行を中心に間違いなく増加する。個人旅行については消費の停滞から従来より少し落ちるが、総合してやや良くなる。		
旅行代理店（営業担当）	・新商品の売行きが好調である。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（営業推進担当）	・猛暑でエアコンが売れたこともあり、同時にテレビの買換えが進んでいる。残り10か月で更に加速する。
		観光名所（職員）	・今後は秋のトップシーズンを迎えるため、天候にも左右されるが、多少は良くなる。
		設計事務所（所長）	・本来の動きは出ていないので不景気を感じるが、設計は1つが長いものなので、1つ決まれば少しはもつ。そのため、やや良くなっている。
	変わらない	商店街（代表者）	・世相がまた不景気モードになりつつあるので、ここ数か月良くなっていた空気は飛んでしまいそうである。ただ、猛暑が落ち着いて、天気の良い快適な秋となれば、猛暑の反動で良くなる可能性はある。
		商店街（代表者）	・地域のディスカウント的な食料品店が2店閉店し、その後にまた同様の食料品店が出店するというで非常に厳しい状況下ではあるが、多少は客がこちらに来るようになって良くなるのかと様子を見ている。
		一般小売店〔衣料・雑貨〕（経営者）	・天候が秋物の動きに影響し、9月も猛暑続きで売行きが悪くなるかもしれない。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・毎日のように競争で廉価販売の折込広告が入るようでは、酒類のみの当店に先行きの望みはない。
		一般小売店〔米穀〕（経営者）	・大型量販店はますます価格重視になっており、客も同様なので、秋の大不況があるかもしれないと心配している。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・経済がこのように低迷していると、当店のような印章業で新しい会社を作る際のゴム印の需要などは良くならない。安売り店も出てきているので非常に小さなパイを取り合っており、浮上することは難しい。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・今月は猛暑で非常に良くなかったが、2～3か月後もこの状態が続くのではないかと考えている。
		百貨店（売場主任）	・残暑が長引くと予想されるため、秋物の動きに悪影響がある。
		百貨店（総務担当）	・当店や近隣店の売上状況を見ると、前年実績をクリアする店が増えているが、まだ安定してクリアできる状況にはなっていないので、しばらくは前年実績を前後する状況が続く。
		百貨店（総務担当）	・円高の影響や政治の低迷から、依然として厳しい状況は変わらない。
		百貨店（営業担当）	・来客数は微増が続いているが、客単価の低下の影響から、売上の急激な伸びは期待できない。円高基調による輸出関連企業の見通しが良くないなど、マスコミ報道についても明るい話はなく、個人消費についても財布を緩める状況にはない。輸入関連や海外旅行などは消費が増えると考えが、国内消費については厳しい状況が続く。
		百貨店（営業担当）	・百貨店にはエコポイントなどのポイントもなく、この気候で既に秋物の動きに影響が出てきている。単価の上がる重衣料の売上にマイナスの影響が出れば、状況は更に悪化する。
		百貨店（販売促進担当）	・8月は目標通りの実績をあげているが、夏季休暇時期の来客、購買客数に助けられてのことで、休暇明けはやや落ちている。単価低下傾向と残暑が続くこれからの時期には不安を覚える。ただ、月後半の不振は高級雑貨やインテリア催事の目標割れが影響しており、ファッションの先物購買の早さに期待し、ヒットアイテムの早期確保を課題としている。
		百貨店（営業企画担当）	・残暑による秋物衣料の不調や厳しい経済情勢等を考えると、消費にプラスとなる材料は見当たらない。
		百貨店（副店長）	・天気に関係のある商品は好調だが、その他の商品にあまり変わりはない。今が良いのはやはり天候のせいである。
		百貨店（営業企画担当）	・客の様子を見ていても必要最低限の買物にとどまっておあり、改善の傾向は見られない。
		スーパー（経営者）	・客数はなんとか維持しているが、客単価が下落しており、客がシブリアな買物をしていることを感じる。この先も良い材料が無いので、変わらないか少し悪くなる方向に向かう。
	スーパー（店長）	・まだまだ猛暑で季節商材の特需がかなりあったため、売上は維持できているものの、定番商品の動きが今一つ良いとは感じないため、先行きは変わらない。	
	スーパー（店長）	・食べたいものやおいしいものは客も分かっているが、単価や量の問題から、何か1つを購入してもう1つを我慢するという購買動向が見られる状況は変わらない。	
	スーパー（店長）	・今の景気が悪い状況の中で会社全体としての抜本的な対策はなく、これ以上、個店で対応できることは限られているため、3か月後はこのままで変わらない。	
	スーパー（仕入担当）	・株価の下落や不況感から、消費支出の増える8月以降は財布のひもが固くなる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（仕入担当）	・夏物から秋冬物への移行のタイミングがずれてしまい、売上の見込みが立たない。
		コンビニ（エリア担当）	・天候要因で客数が増えているだけなので、先行きは変わらない。
		コンビニ（店長）	・社会的な不安材料や政治が不安定なことから、将来への希望が持てず、地域の客に活力がなくなっている。最近来店客の元気がなく、店もその影響を受けなかなか活性化しない。
		コンビニ（商品開発担当）	・個人消費が上向き好材料が新たに出てこない限りは、景気が上向きのは難しい。
		衣料品専門店（経営者）	・消費者の目がエコポイント対象商品に向いているため、なくなった時には消費が控え目になる。また、アパレル関係は天候にかなり左右される業界で、全体的には低迷しており、ヒット商品が出る様子もなく、あまり期待できない。
		衣料品専門店（店長）	・3か月前から同じような状態が続いているので、ここから先、一気に上向いたり下向いたりするとも思えず、現状維持が続く。
		その他専門店〔服飾雑貨〕（統括）	・購買意欲をあおるモチベーションもなく、苦戦が予想される。
		その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）	・北米で下期にかけて大型タイトルの発売と市場の盛り上がりが見込まれるが、国内メーカーは押され気味の状況が続く。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・クリアランスセールにより来館者は増加しているが、客単価の下落傾向が続いており、セール後の動向を注視する必要がある。また、急激な円高、株安が今後どのように影響するのを見定める必要がある。
		高級レストラン（支配人）	・秋から冬にかけての宴会予約の出足が遅い。一時良くなりかけた景気もやや足踏みをしている。また、好調な企業とそうでない所がかなりはっきりしている。
		一般レストラン（経営者）	・例年8月の売上はもちろん悪いが、11月もそんなには良くならないので、3か月前の11月は大きく変わらなない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・円高あるいは株安といった不確定要素が非常に多いため、極端に多くなるということはない。
		タクシー運転手	・タクシーの利用者は必要に迫られた個人であり、大手企業の利用はまだ控えられている。
		タクシー（団体役員）	・今後の景気対策に期待するところだが、今のままだと需要が増える要素が何もなく、悪い状況で変わらない。
		通信会社（経営者）	・加入獲得は計画どおり推移すると思うが、解約も多く、課金純増ベースでは厳しい状況が続く。
		通信会社（営業担当）	・個人宅より、デジタル対策をまだ終えていない小規模集合住宅からの需要が引き続きあると思うため、契約数も堅調に推移する見込みである。
		通信会社（営業担当）	・景気の先行きが不透明なため、余計な出費は控える傾向が続く、回復する兆しは見えない。
		通信会社（営業担当）	・地域の商店の顧客が減少し、閉店が増えている。
		通信会社（営業担当）	・地上デジタル放送対策に関連した問い合わせ増とアンテナ設置、他社切替による解約増という状況はしばらく続く。
		通信会社（支店長）	・今後、売上を確実に伸ばしていく店舗と低迷していく店舗の差が広がっていく。
		通信会社（局長）	・地上デジタル放送化カウントダウン効果での販売量は、増加に陰りが見えてきている。また、単価の減少傾向が相変わらず続いており、一般的な景気対策がしっかりと見えない現在では、将来的な期待も薄い。
		ゴルフ場（支配人）	・2～3か月前の予約状況が、平年を若干下回っている。
		パチンコ店（経営者）	・夏の比較的良好な時期にさほど良い数字が上らなかった。2～3か月前は、心配はあるが期待を込めて、変わらない。
		その他レジャー施設（経営企画担当）	・円高、株安や民主党代表選を控えていることなど現在悪材料を多く抱えているものの、プロスポーツ関連商品、サービスでは、大きなイベントが続くため、期待している。
		設計事務所（職員）	・更に上向きを期待したいが、その期待を実現化する要素が見当たらないため、平行線である。
		住宅販売会社（従業員）	・景気の良くなる要素が見当たらない。金利や税制に変化はなく、住宅版エコポイント制度もあまり効き目があるようには感じない。新築マンションがようやく近隣で供給を始めたので、買換え層などが動いてくれば、周辺の活性化につながってくるのではないかと期待している。安値で土地購入ができた建売分譲業者がようやく供給を増やしてきた感はあるが、単価が下がっているため、販売数を増やすことでカバーしないといけないう状況である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（従業員）	・通常2、3か月先は秋の商戦等に向けて販売量が良いのだが、今年は客は動くにしても売れる物が無いのが現実である。そのため、変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・契約数は変わっていない。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・現在は経済も政治も停滞感があり、今後劇的な変化が起きていくようなことは期待しにくい。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・商店街の通行量、売上が激減している。夏物が猛暑でいつまで売れるのかが問題であり、また、秋物が入ってきててもこの暑さでは手が出ないので厳しい。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・まだ残暑が続くということで、景気の悪化もしばらく続く。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・暑さが続くとは言われているが、真夏とは違う。秋以降もテレビには期待しており、LED電球のキャンペーンも始まるが、細かい物なので、総じてやや悪くなる。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	・夏も終わり、また元に戻りそうである。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・来月も例年より暑い日々が影響し、売上ダウンが予想される。その後、冷たいお茶から熱いお茶へのきっかけが早まり、売上が回復すると期待したい気持ちである。
		百貨店（企画担当）	・一部小売で取り組んでいる円高セールといったものの訴求よりも、連日の円高、株安報道、政局不安など、消費者心理を冷え込ませる要因のほうが強くなる恐れがある。
		百貨店（営業担当）	・消費税に関する発言や円高、株安の進行の影響もあり、消費マインドが冷え込んできている。具体的には、スーパーブランドを始め、宝飾、時計、絵画などの高級雑貨が低迷してきており、婦人服もプレタポルテなどの高級特選品が低迷してきている。
		百貨店（販売促進担当）	・円高や政治不信など景気の悪くなる要素はあるが、上向きになるような要素は見当たらない。
		百貨店（販売管理担当）	・宝飾品や高級時計、絵画などの高額品が7、8月と不振を続けていること、猛暑の年は秋物が不振ということもあり、改善される材料が無い。
		百貨店（営業企画担当）	・残暑の影響で秋物の動きはしばらく鈍そうである。食品やリビング、雑貨でけん引していく必要がある。
		スーパー（総務担当）	・円高の継続と金利が上がらないことでお金の動きが非常に悪くなっている。客の可処分所得が上がらないのが景気が良くならない理由である。
		コンビニ（経営者）	・暑さによる、熱中症対策用の冷たい飲料が出回っており、食品、飲料関係の出荷、購入も非常に多いが、暑さによる一過性のものである。
		コンビニ（経営者）	・今月は好天続きにより売上を作ることができたが、天気次第の状況で、このままの販売量が続くことは考えにくい。先行き、販売量が減少することは明白である。
		衣料品専門店（営業担当）	・長期天気予報で9月は残暑、10月は前年より暑く、11月に寒くなると発表された。メーカーでも店でも秋が抜けてしまうということで心配している。
		家電量販店（経営者）	・エコポイントと猛暑効果で8月は好調に推移している。エコポイント終了の12月は過去最大の売上が期待できるが、その間は反動減となる。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー補助金が9月一杯で打ち切られるので、販売はますます悪くなる。
		乗用車販売店（販売担当）	・今月はエコカー購入補助金終了間近のため、買い回り客や受注が非常に多く好調であるが、今後は売行きが伸び悩む。
		乗用車販売店（営業担当）	・補助金制度が終了となるため、減税だけではユーザーにはお得感が低いように取られてしまう。
		乗用車販売店（渉外担当）	・エコカー購入補助金の終了により、前倒し購入の反動が2～3か月続く。また、各メーカーの日当たりの生産計画も、10月より1～2割減産になっており、一時的な購買意欲の低下でやや悪くなる。
		都市型ホテル（支配人）	・先々の販売量は前年比で減少している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル(スタッフ)	・レストランの9～11月の予約人数は前年比1割弱増えているが、料理内容はこれから決まる案件が多くある。問い合わせでの応答では、こちらの提示、提案する料金より安い商品の問い合わせが多い。新聞等での株安や円高の報道の影響で、これからの集客や当日の来客に影響が出そうである。一方、宿泊は海外からの客足がリーマンショックから回復しつつある時に、円高が大きな逆風となっている。外国人客の、この先の予約の入りが一気に弱くなっている。また、まだキャンセルは出ていないが、国内企業が宴会や忘年会を自粛しかねないかと心配している
		旅行代理店(経営者)	・安値の商品販売が横行している状態で、特にツアー等は1人でも参加できることをうたい文句にしているの、なかなか当社のほうまでは仕事が回ってこない。ツアーでも安値で、大体2万円前後の傾向が多い。見積の問い合わせすら、現状としてはない。
		旅行代理店(従業員)	・業務性渡航が完全に回復しないまま、また円高による景気失速感が出てきている。
		タクシー運転手	・タクシー適正化・活性化法ができてても供給過多で需給バランスが一向にとれない現在、運転者として景気が良くなる傾向が見えてこない。都心は至る所で道路工事をしていて車の通行に支障をきたしているが、景気付けの内需拡大になっているのか疑問である。
		遊園地(職員)	・消費マインドの冷え込みからの脱却を期待できる要素が見当たらず、消費者の支出抑制傾向はまだ続くと思われるため、やや悪くなる。
		その他レジャー施設[ホール](支配人)	・円高の対策は見えず、株価は暴落、エコカー補助金も終了し、これでは消費者はますます生活防衛型となり、余暇や趣味は控えることになる。結果、劇場やホールへの足は遠のく。近くの映画館では、話題の新作が上映されており、入場してみたが空席が目立ち、殺到している様子はない。
		美容室(経営者)	・商店街では生鮮3品の魚屋や雑貨類の店がやめ、段々とシャッター通りになってきている。
		その他サービス[学習塾](経営者)	・今年の夏期講習も単価を少し下げたが反応が悪く、人数的には少なくなっている。末端までは、景気の上昇が見込まれない。
		その他サービス[立体駐車場](経営者)	・毎月、もうこれ以上来客数が減りようがないと思えるほど減っているのに、まだ少しずつ減っており、なおかつ駐車時間も短くなっている。
		設計事務所(経営者)	・新しい仕事が見えない。行政の指名はあまりなく、民間も固まっており、この先が全く見えない。
		住宅販売会社(従業員)	・現状では受注残が少なく、売上はあまり期待できない。契約も現在の集客があまり芳しくないため、厳しい方向に向かっている。
	悪くなる	一般小売店[和菓子](経営者)	・9月になってもこの猛暑が続くような予報が出ており、やはり客数の減少は否めない。また、政治が不安定で先行きが不透明な部分が多く、経済にも影響してくる。
		一般小売店[食料雑貨](経営者)	・株安、円高等による先行き不安で消費意欲は更に落ち込む。
		百貨店(広報担当)	・ものづくりの現場は海外にシフトし、更に国内のめぼしい技術を持つ企業は新興国を含む海外企業やファンドに買収され、日本は空洞化しつつある。この状況下で経済の立ち直るきっかけが見当たらず、日銀や政治への期待も薄い。当店で当面大型改装などの予定もないので、景気悪化に歯止めが掛からない状況である。
		衣料品専門店(経営者)	・円高、株安の直接的な影響はないと思うが、天候不順もあって購買意欲は依然、低迷する。
		衣料品専門店(経営者)	・初秋も天候に大きく左右される状況が続くそうであり、日々売る商材の検討が必要である。ヒットアイテムが無く、また価格にもシビアな今の状況ではタイムリーな商材確保が難しく、数字の確保が大変そうである。
		衣料品専門店(店長)	・具体的な景気対策が打ち出されず、雇用が改善されていないため、価格を下げてても効果が出ず、天候、気温に左右されるだけの状態が続くため、悪くなる。
		乗用車販売店(経営者)	・補助金の終了が見えてから来店が激減した。駆け込み需要もひと段落してしまった。
		乗用車販売店(店長)	・今はエコカー購入補助金の駆け込みで需要が保てているが、補助金も9月で終わる。現在続く円高、中国に頼っているレアアース規制も非常に良くない状態であり、物価が上がる気がする。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（販売担当）	・環境助成金の営業ナンバー車については、7月の下旬ごろで終わってしまった。8月までは現行車の登録ができるが、9月以降についてはポスト新長期の登録になる。そういう状況で、助成金は出ない、ポスト新長期で車両代は高くなる、燃料代も現状まだ上がっているということで、トラック業界はこの後2、3か月はまだまだ悪くなる。また、燃料の値段が高止まりしていることと、物流の輸送量が相当落ち込んでいるということで、各社競争をして運賃を下げている状況なので、会社経営も相当厳しい。
		乗用車販売店（総務担当）	・新型電気自動車の投入で、顧客の心を動かすことができると思うが、補助金制度の廃止に伴う反動が、思っている以上にのし掛かってくる。辛抱の長期戦になる。
		一般レストラン（経営者）	・円高や今の政治状況で、景気が良くなるわけが無い。まずは客の財布のひもは固くなるだけである。
		一般レストラン（店長）	・7月くらいまではそうでもなかったかと思うが、8月から急激に悪くなっている。当店周辺は一部上場企業ばかりなので、円高や株安で大変締めてくると思うので、店の存続が非常に厳しい状況で、いつ閉店しようかと考えている。
		タクシー運転手	・最近円高、株安のところにもた物価が下がってきている。65円という値段の寿司屋まで表れている状況で、良くなるという要素が見つからない。
		設計事務所（所長）	・民間の計画がほとんど無いなか公共建物に切り替えたが、3年、1年先の完成で中間が無い。完成後の入金のため、その間のやりくりが大変で、苦戦をしている。
企業 動向 関連	良くなる	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・当社の季節的な要因による。
	やや良くなる	食料品製造業（経営者）	・敬老の日やお彼岸などの注文が入り始めてきている。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・今月の様子を見ると、個人も法人もわずかだが緩やかな上り坂になってきている。
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・このところ若干の下降傾向が続いていたが、アナログ地上波の停止まであと1年となったこの時期になり、地上デジタル放送の対応に絡めて、マンションの通信設備についても相談されることが増えてきている。今後はこの流れを生かして下降傾向に歯止めが掛かることを期待している。
	変わらない	繊維工業（従業員）	・自分、今の閉そく感から抜け出せない。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・円高、政治経済が原因なのか分からないが、仕事が無く、ずっと夏休みのような感じである。
		化学工業（従業員）	・客先に販売状況を聞いても相変わらず良くなく、先行きも良くなる要素はないとのことである。
		一般機械器具製造業（経営者）	・3か月内示を見るとそんなに落ち込みは無さそうだが、この円高で、当社が生産している自動車関係の部品はブレーキが掛かってくるのではないかと心配がある。先が見えない状態である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・ちょっとした企業は中小企業を含めて海外に出ることを考えており、日本国内は本当に空洞化しつつある。
		電気機械器具製造業（経営者）	・経済政策でしっかり手を打っていないので、円高は一向に改善されない。大企業が設備投資を控えないといけないう現状で、景気が良くなるとは考えられない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・もっと円高が進んで80円くらいで定着してしまうのではないかと心配している。加工品は日本では高いとは思っていないが、高いと言われれば外国で加工するしかない。日本離れがどんどん進んでしまう気がして、どうやったら今後発展するヒントを得られるのか、分からない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・受注量は自動車関連を含めてやや多くなっている。ただし、円高、株安の問題があるので、コストが厳しくなるのではないかと心配している。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	・当面、現状のままで変わらない。多少落ちることはあっても良くなるという実感はないので、不安を抱えながらこのまましばらく続く。
		建設業（経理担当）	・この先入札予定に福祉関係や幼稚園等の案件があるが、予算があまりにも少ない。赤字覚悟で受注するか、仕事をあきらめるかの選択が続きそうである。
輸送業（所長）	・会社全体でも商談の話が聞かない。取引先でも、段々と同業他社間で仕事の奪い合いが始まっており、それで失注する可能性があるとのことである。それで最悪、当社との取引にまで影響を及ぼすとも言われている。		
通信業（広報担当）	・円高などの懸念材料はあるが、年内は中小企業の経営環境に大きな変化はない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		金融業（渉外・預金担当）	・悪い状態が続ぎ、いったん持ち直したようだが、様子見の状態が続きそうである。かと言ってどん底とまではいかず、難しい局面である。	
		金融業（支店長）	・中小企業金融円滑化法により条件変更をしている企業は資金繰りが安定し、資金繰り倒産の危機は脱している。受注は回復しているが価格が下落し、売上増には至らない。今後売上増に転じた時の資金調達をどうするのが、企業存続へのかぎとなる。予断は許さない。	
		不動産業（総務担当）	・景気はこれ以上悪い方向には向かわないと思うが、当面は劇的に回復するとも思えない。しばらくは、小テナントも含め、入居希望情報を着実に拾いながら、空室率の改善を図っていくしか手立てがない。	
		広告代理店（従業員）	・前年と同程度の売上が見込める。同業者と話すとう売上が減っているとのことなので、売上が減少しないことで良しと思っている。	
		社会保険労務士	・良くなるという要因が見当たらない。	
		経営コンサルタント	・自動車、機械など輸出産業の下請を担う市内の町工場はようやく苦境を脱したかに見えたが、思わぬ円高で再び身を引き締めている。一国だけの対応では解決できない問題だけに不安が大きく、生産能力増強のための人員増の計画を中止してしまっている。	
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・エコカー購入補助金終了など先行きに対する不安定要素が取引先に大きく、低迷状態がしばらく続く。	
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・すぐには変わらない。企業の体力があるうちに、新しい分野に展開していくべきと考えている。	
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・翌月以降の見込も先月と変化なしのため、変わらない。	
		やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・気分的なものだろうが、閉そく感が実際の仕事に大きな影響を与えている。
			出版・印刷・同関連産業（所長）	・この状況はまだ続く。既存の取引先に頼らず、新規獲得を目指す動きを活発にしないと、生き残りは厳しい。
			出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・時期的な要素もあるが、不況による発注量が減っていく傾向は長期的に続く。
			プラスチック製品製造業（経営者）	・各顧客とも受注にそれほど大きな落ち込みはなさそうだが、新規案件や開発の話が全く無い状態で、先行きはかなり厳しい。
			金属製品製造業（経営者）	・取引先の多くはこの円高に対する警戒感が強く、発注価格の見直しなど原価低減依頼が出てきている。
			精密機械器具製造業（経営者）	・今後の仕事は海外等に行くような話があったので、あまり良くならない。
			その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・エコカー購入補助金終了の影響が回りまわって家計に出てくるため、やや悪くなる。
建設業（営業担当）	・円高も影響して自動車メーカーや商社の仕事が激減し、全体的な仕事量が減ってきている。			
金融業（役員）	・取引先の多くに電機部品メーカーや自動車部品の下請があり、円高で輸出が厳しくなっていることが一番の要因である。			
金融業（支店長）	・小売業の客の売上は少し低迷しており、製造業等は利幅が少ない。9、10月以降の仕事の目途が立っていないとこのことで、財務的にはかなり悪化傾向にある。これが少し続くと景気はやや悪くなっていく。個人客も住宅ローンの自己破産が増えており、給料面を抑えるのにも限度がきている。			
不動産業（従業員）	・工場用地等についての注文、問い合わせが非常に少なくなっている。また、大型店舗についても条件が非常に厳しくなっており、先行きは暗い。			
広告代理店（経営者）	・国内得意先の広告実績が戻って来たようなので希望的観測としたが、実際は厳しい。			
広告代理店（営業担当）	・円高要因が、日本のプラス要素を反映しているものでは決してない。結果的に輸出、輸入共に先行き不透明、株価も下がり傾向で、景気が良くなると前向きにはとらえられない。			
経営コンサルタント	・円高などの影響が懸念される。効果的な施策も投入されていない。			
経営コンサルタント	・円高の影響が、中小企業への値下げに響く。			
悪くなる	金属製品製造業（経営者）	・技術立国として今まで成長してきたものを守る対策がなされておらず、大企業はコスト低減のために海外に投資し、利益を確保しているのが現状である。このままでは日本の中小企業の経営継続は非常に難しくなる一方である。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（経営者）	・円高による輸出の低迷により、国内景気は更に悪くなる。政府による有効手段が働き、円高を止めることができれば、景気を維持することは可能と考える。しかし、大手企業が安くものづくりのできる国へ出て行く傾向は止められないので、根本的な見直しにはならない。
		建設業（経営者）	・円高や株価の下落で経済が今以上に低迷する。雇用対策も必要だが、経済対策を今までと同じ継続ではなく見直す必要がある。企業や技術を持っている人がどんどん海外に出て行っているため、雇用も増えるわけがない。
		輸送業（総務担当）	・出荷量が激減し、運賃の低価格化が進んでいる。荷主の生産量も当初の計画から大幅に減っている。今後も増産計画は予定されておらず、荷主は今年度後半の計画も下方修正を検討しているため、ますます悪化する。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・東京都の最低賃金改定の影響で、時間単価を上げないとならないので、厳しい状況になる。
雇用 関連	良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・9、10月は1年の中で一番募集が活発な時期なので、それに対する期待がある。いろいろな客の計画等が入ってきているので、それが全部来れば相当な盛り上がりを見せる。
	やや良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・現状、微増ではあるが求人数が増加しており、このまま続くように感じる。各企業とも景気回復を背景に求人数が増えてくる可能性がある。
		職業安定所（職員）	・毎年7～8月にかけて新規求人数が減少する傾向だが、新規求職者数も減少している。9月以降に新規求人数が増加すれば、若干ではあるが雇用情勢は改善していく。ただし、エコカー購入補助金終了で自動車関連の製造業が一時期落ち込むことも予想され、予断を許さない状況は続く。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・円高はどんどん進んでいて必要な景気対策が打たれていないため、先々に非常な不安を持っている経営者が多い。
		人材派遣会社（支店長）	・まだ底が見えそうで見えない。労働者派遣法改正案の状況にもよるが、派遣自体が企業から敬遠されてきているため、当面このような状況が続く。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・8月はアルバイト、正社員共に求人意欲が増加している。全体的に求人意欲が高まっている傾向はあると思うが、事業拡大等の理由よりも時期的な要因のほうが強い。9月に入ればある程度動きに落ち着きが出てくるため、この求人意欲の高まりは一時的なものである。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・顧客数は多少の改善が見込めるが、単価の下落が続く。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・求人数の量は変わっていない。
		職業安定所（所長）	・新規高卒求人数が昨年度よりわずかながら減少しており、さらに一昨年度と比較するとほぼ半減と、企業の採用意欲は依然高まっていない。目下の円高や政治情勢など混乱要素を加味すると、先行きは不透明である。
		職業安定所（職員）	・一部の事業所においては、受注量の増加から休業規模を縮小したり一時的に休業を実施しない所が見られるようになってきているものの、大きな変化は無い。なお、一部に円高の影響を心配する声が聞かれる。
		職業安定所（職員）	・求人数が増えている状況ではないため、今後も就職者が増えることは予想できない。
		職業安定所（職員）	・公共投資の減少による建設業の求人減少が見られる。景気低迷から脱するまでにはまだ至らないため、雇用できないという状況である。
		職業安定所（職員）	・円高により下半期の利益が不透明になっていることや、消費の低迷により、求人意欲も様子見気分が高まる。
		民間職業紹介機関（経営者）	・国内外での難しさがいろいろと出ている。国内は非常に難しく、海外では順調にしているが、全体では非常に難しい状況である。
		民間職業紹介機関（経営者）	・求人案件があっても条件が厳しく、採用に至る人材は少ない。企業側で内定を出しても、それから現在の会社と交渉して結果的に転職はしないとなるケースが増えてきている。
		学校〔専修学校〕（就職担当）	・募集未定企業の状況に変化はなく、事前予定より採用中止企業が若干増加している。
学校〔専門学校〕（教務担当）	・仕事の受注が無いので採用人数を絞るしかないとのことである。年内の仕事受注は望めないとの企業が多く、卒業生については自宅待機の話も多く聞く。		
学校〔短期大学〕（就職担当）	・景気が良くなるような話が全く無い。企業合同説明会への参加企業はいつも同じで、数が少ない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・輸出関連企業では海外での販売が堅調であり増収増益にあったが、昨今の円高による影響を各社とも懸念している。特に自動車関連では9月末にエコカー購入補助金の終了に伴う販売の減少、生産縮小の懸念もあり、先行き不透明な要素がある。
		人材派遣会社（支店長）	・派遣契約は3年という期間制限のため、また、企業の予算見直し等によって終了が見込まれており、やや悪くなる。
		人材派遣会社（業務担当）	・これまでは直接雇用プラス派遣という形態の現場が、企業のリスクヘッジからか、請負に切り替わる例が増えている。そのため、請負の対応ができる派遣会社は仕事が増えている。9月になれば落ち着きは見せると思うが、急激な下降線は考えにくい。
		人材派遣会社（営業担当）	・求人数は少しずつ増加しているが、採用側が求める基準が高くなっており、なかなか採用まで至らないことが多い。実際の採用数は徐々に減ってきている。今後、求人、採用が増えるような材料は見当たらない。
		求人情報誌製作会社（編集担当）	・求人数の少なさもさることながら、職種の偏りが目立ち始めている。一時、職種が増えて多様な分野での求人があり期待をのぞかせたが、継続の動きはない。秋以降の予想が全く付かない状況である。
	民間職業紹介機関（職員）	・円高、株価、欧米経済の動向等により、心理面で厳しい。また、円高によってメーカーが影響を受けるため、正規社員の採用には慎重にならざるを得ない。	
	悪くなる	求人情報誌製作会社（広報担当）	・全く売上見込みが立っていない。この急激な市場の縮小は、少しくらい頑張っても無理である。

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	一般小売店〔薬局〕（経営者）	・猛暑の影響による体調不良で、9、10月にはおそらく通院者が増え、栄養剤の購入も増える。医療業界は忙しくなる。
		百貨店（販売担当）	・猛暑の影響で、客の意識が新作になかなか向かわない傾向が強く感じられる。しかし、2～3か月後には気候が落ち着いて、秋冬シーズンの商品も出揃っていることから、売上の回復が見込める。
		スーパー（総務担当）	・来客数、客単価は共に改善傾向にあり、ここ1週間の平均購入単価も10円ほど増加している。今後はやや良くなる。
		コンビニ（商品開発担当）	・残暑が続く見込みのため、引き続き夏型商品の好調が見込まれる。また、たばこ増税前の駆け込み需要により、来客数が増え関連商品の売上も増える見込みである。
		家電量販店（店員）	・家電エコポイントの終了に向けて、売上は伸びる。
		旅行代理店（経営者）	・円高によって、旅行業界ではどちらかといえば受注増が見込まれる。
		通信会社（サービス担当）	・テレビサービスの提供エリアの拡大により、光回線の販売量が増える。
		美容室（経営者）	・6月は多雨により、7、8月と9月も暑さによって不調である。しかし、11月ごろには、7～9月に来店しなかった客が来店すると思われ、少しは良くなる。
		その他サービス〔語学学校〕（経営者）	・新入校者数は、毎月少しずつ増えている。この傾向は今後も続く。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・秋には、メーカー各社が新商品を投入してくる。カタログの刷新によって、販売促進が見込まれる。
	変わらない	商店街（代表者）	・必要以外の物を購入しない傾向は続いており、販売量、売上の増加には今後もつながってこない。
		商店街（代表者）	・地上デジタル放送への切替えに伴い、テレビの買換えは進む。しかし単価の下落が激しいため、収益の改善とまではいかない。
		一般小売店〔自然食品〕（経営者）	・買い控えや低単価商品への移行の動きは、今後も続く。販促活動や新商品などで、企業努力していく必要がある。
一般小売店〔惣菜〕（店長）		・今後の売上が回復する要素は、まだ見えない。	
		百貨店（売場主任）	・厳しい残暑のため、今後も外出して買物する元気はないと思われる。購買意欲は相変わらず感じられない。
		百貨店（企画担当）	・6月の売上は前年並みを確保でき、7月からは堅調に推移すると思われたが、7月は前年を下回る日が続いた。8月も6月と同様に比較的順調ではあるが、7月の例を考えると、今後も順調に推移するかどうか不透明である。ただし、中元の売上が前年を上回るなど、回復の兆しは見える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（経理担当）	・客単価が低下しているため、来客数の減少以上に、売上は減少している。この傾向は今後も続く。
		百貨店（営業企画担当）	・回復傾向は、11月までは続く。ただし12月以降は鈍化する可能性がある。
		スーパー（経営者）	・季節的には良くなるが、中小の小売店では客離れが続き、悪い状況は変わらない。
		スーパー（店長）	・新商品の動きなど、たばこ増税以外でも非常に不透明である。政治も先行き不透明であり、景気が良くなる要素は見当たらない。
		スーパー（店長）	・品質や機能が明確な商品は、価格比較されて低価格に移行しやすい。同じ商品なら少しでも価格が安い店に流れる。また、通信販売の台頭もあり、スーパーの客単価が今後上昇する可能性は低い。
		スーパー（店長）	・売上、利益を伸ばすために様々な対策を取っているが、簡単に良くなる対策は見つからない。少しでも客の満足につながると思われる対策を、1つ1つこなしていくしかない。この先も、大きくは変わらない。
		スーパー（店員）	・イベント開催など今後景気良くなるような要素はなく、横ばいが続く。
		スーパー（店員）	・ここ数か月間、変わる様子は全くない。今後も現状のまま、悪い状態が続いていく。
		コンビニ（店長）	・猛暑のため飲料の動きは良いが、その分、食品の動きは悪い。全体的にみると、今後も変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・夏の好調な販売は、今後も継続する。
		コンビニ（店長）	・来客数は前年を上回る状況が続くが、単価は伸びないと思われる。現在の状況が続く。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金が終わるため、今後どのように変わっていくか不透明である。今後給料が増える様子もなく、車を買おうとか買換えようという気になるとは考えにくい。
		住関連専門店（営業担当）	・公共工事、民間設備投資の減少は今後も続く。住宅版エコポイントはあるものの、消費者のマインドは冷え込んだままであり、注文住宅、分譲マンション共に売行きは今一つの状態が続く。
		高級レストラン（スタッフ）	・様々な販促、イベントを展開しているが、その効果はどれも一過性であり、持続性、手応えが感じられない。今後も厳しい状態が続く。
		観光型ホテル（販売担当）	・先行きが不透明であるため、安価商品の展開を年内までに延長している。このため、手数は掛かるが、収入の伸びは期待できない。また、最近の円高によって、近隣の製造業への影響が気になる。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数は、これまでどおりで推移している。
		都市型ホテル（経理担当）	・円高によって、海外からの旅行者数に影響が出てくる。
		タクシー運転手	・大手自動車メーカー関連企業による、繁華街でのタクシーチケット利用は、ほとんどなくなってきている。今のタクシー業界の景気は、大手自動車メーカー関連企業の動き次第であり、エコカー補助金終了の影響が懸念される。
		通信会社（企画担当）	・良くなる材料は見当たらず、秋ごろまではこの状況が続く。競争環境は、一段と激化してくる。
		ゴルフ場（企画担当）	・2～3か月先の予約数は前年予約数に達しておらず、今一つである。ゴルフ業界の景気も悪いが、暑さのために予約が鈍っている面もある。
		美容室（経営者）	・客との会話では、メディアの影響もあると思うが、景気が良くなるという話は聞かれない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・春先に比べると、消費は急速に落ち込んできている。秋に持ち直す要因は見当たらない。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	・8月は20日まではほぼ前年並みであったが、それからは徐々に悪くなり、前年同月を8～9%下回る状況になっている。毎月少しずつ悪くなっており、この傾向は今後も続く。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・自分のための購入は増えているが、贈答の件数は減っており、付き合いの幅も狭くなっている。お金の使い方が変わってきており、今後もこの傾向は進む。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	・今後も厳しい残暑が続くとこの予報があり、売上は引き続き低迷する。また、円高、株安が続くと、輸出関連企業やその下請企業の業績が悪くなり、収入は伸びなくなる。少し良くなりかけていた景気は、再び悪化に向かう。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場主任）	・8月前半はクリアランスセールのため、ある程度の売上があった。しかしお盆を過ぎた頃から来客数が減り、平日昼間はほとんど売上がなく、夕方に仕事帰りの客が少しある程度である。秋物の新作が入ると見に来る客もあるが、客の様子を見ていると、下見ではなくただ見ているだけであり、購買意欲は感じられない。今後の売上は厳しくなる。
		百貨店（販売担当）	・客の購買意欲はここしばらくは良い方向に向かっていたが、徐々に後退している。富裕層の購買意欲はそれほど変わらないが、中間層が特に厳しい。
		百貨店（販売担当）	・企業の売上に改善が見えていないことから、二番底への不安が広がり、少し上向きになっていた消費行動に歯止めが掛かりつつある。高所得者層の動きは安定しているものの、それ以下の所得層で引き締めが見られる。特に生活必需品ではないファッション商材の買い控えが強くなっていく可能性がある。
		百貨店（経営企画担当）	・長引く猛暑により、秋物衣料に立ち上がりの遅れが予想される。また、円高と株価の低迷により、消費者心理への悪影響が予想される。
		スーパー（経営者）	・輸出産業が景気を先導してくれると思っていたが、予想以上に円高が進み、企業では利益が増えない状態にある。輸出産業に関係する中小企業も、そのあおりで苦労している。そのため、雇用の改善は進まず、賃金も据置きで、消費に使える金額は少ない。景気は良くなるどころか、悪くなる。
		スーパー（経営者）	・大型店の値引き広告が目立つ。また、近くにディスカウントストアが開業するため、今後は完全にデフレ傾向になる。景気が良くなるとは考えられない。
		スーパー（販売促進担当）	・新しい商業施設が開業予定であり、客の動きに予測がつかない。
		コンビニ（エリア担当）	・近隣には、輸出関連の工場が多い。これだけ円高が続くと、工場の稼働率が落ちて、店の売上も厳しくなる。
		乗用車販売店（従業員）	・来客数が減少傾向にあることに加えて、エコカー補助金がなくなるため、今後は反動が出てくる。特に販売台数の主力を担うコンパクト車が、エコカー補助金によってかなり先食いされており、現状でも販売台数はかなり落ち込んできている。今後は非常に不安である。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金が終了するため、反動は大きくなる。
		乗用車販売店（総務担当）	・9月でエコカー補助金が終了するため、今後は厳しくなる。
		観光型ホテル（経営者）	・最近の受注の動きは停滞気味であり、今後もこのまま推移すると思われる。手詰まりを感じている。
		都市型ホテル（経営者）	・円高が影を落としている。消費は少しかげりが見える。
		都市型ホテル（支配人）	・近隣には輸出企業が多いため、円高によって今後更なる経費削減があれば、マイナス要因となる。
		旅行代理店（経営者）	・景気に関する客の見通しが悪いため、単価が低くなっている。
		旅行代理店（従業員）	・2～3か月先の予約受注は、あまり良くない。これから先は、厳しい状況になる。
		旅行代理店（従業員）	・激安旅行商品を店頭に並べても、売れない。企業関連の忘年会商品の発売を始めたところ、例年ならば営業に行くとともに予約が成立したのに、今年は様子見という企業が多い。受注数は例年よりも少ない。
		タクシー運転手	・円高、株安の影響で、会社関係のチケット利用客が少なくなっている。
		理美容室（経営者）	・客との会話では、仕事は増えたが給料はあまり増えていないとのことである。所得が増えていないため、景気はまだ良くならない。
	悪くなる	コンビニ（企画担当）	・円高とエコカー補助金の終了により、製造業関係が落ち込む影響が出てくる。
		コンビニ（エリア担当）	・たばこ増税に伴う値上げ前のまとめ買いの反動で、10月以降の来客数は激減する。また、禁煙する人が増える。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・夏物の取り掛かりが遅かった今年は、秋冬物の出足も悪くなっている。また、残暑の厳しさが、より一層悪くする。
		家電量販店（店員）	・参議院選挙の際の消費税導入論議により、消費者は節約するしかないとの意識を持っている。それが客単価や販売量の動きに影響を及ぼしており、この影響は今後も続く。また、円高の影響も現れてくると思われる。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー補助金が終了するため、客の購買意欲は減退する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金によるこれまでの受注先食いの反動で、今後の販売は減少する。メーカーは特別仕様車を売り出すことにより、市場の盛り上げを図る。販売店でも、店頭への客の誘導や訪問活動の強化を図る。1件1件の商談がより大切になる厳しい販売環境は、しばらく続く。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金が早期に終了する可能性もあり、販売台数は盆明けから鈍化している。補助金の終了後は、販売台数は大幅に減少する。
		その他専門店〔貴金属〕（店長）	・景気の底はまだはっきりとは見えておらず、不況感も消えない。ぜいたく品と言われる宝飾品の動きは、非常に悪い。先行きもまだまだ厳しい。
		一般レストラン（経営者）	・客との会話では、どの職業の人も景気回復の見込みはない様子で、今後も悪くなるとしか思えない。
		旅行代理店（従業員）	・この先、大きな仕事が無くなりそうである。
		住宅販売会社（経営者）	・所得が増えていないため、今後の売行きは悪くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・末端の下請企業の仕事が無くなると、今後は今までどおりの仕事ができなくなってしまい、仕事があっても受注できなくなってしまう。建設業界の構造が崩れてしまうと悪循環になり、より悪くなる。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔室内装飾業〕（経営者）	・9月からの仕事の問い合わせが、ほとんどない。見積依頼があっても、4～5か月後の仕事である。
企業 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・窯業界の先行指標となる住宅着工件数は、平成22年1～3月までの累計と比べて平成22年4～6月の累計は4.7%増加している。
		輸送業（エリア担当）	・アジア特に中国の景気が、引き続き日本の経済をけん引する。
	変わらない	行政書士	・今後は、わずかながら動きが出そうである。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・秋は毎年荷動きが多くなる季節であるが、このまま円高が続くと悪い状況が続く。
		化学工業（企画担当）	・アジア、特に中国の好調さは、円高、株安と米国の景気減速によって相殺される。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・新規の引き合いは例年よりも多いが、単発的な案件が多く、これから伸びていくとは感じられない。
		金属製品製造業（従業員）	・価格が好転する兆しはない。業界の構造的な問題もある。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・受注量の落ち込みを企業努力でカバーし、現状を維持する状況は、今後も続く。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・生産契約上、今後も現状並みが続く。
		輸送業（エリア担当）	・円高のため輸入が増えてくると思われたが、そうでもない。国内需要が喚起されていないためであり、今までの傾向と比べると、国内市場は停滞している。円高でもその恩恵を受けていないと思われるため、景気は今後も現状維持と予想される。
		金融業（企画担当）	・売上の回復によって利益が出ないと、景気回復とは言えない。円高が進んでおり、当地区の自動車業界への影響は非常に大きい。景気が回復する要素は見当たらない。
		不動産業（開発担当）	・景気回復には、一服感が出てきている。前年下期から今年上期にみられた相場以上の価格で事業用地を取得するような企業は、減少している。今後は現状並みが続く。
		広告代理店（制作担当）	・企業からは、秋に向けて広告予算を増やすという話は聞かれない。かえって減らされる可能性が高い。
		やや悪くなる	紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）
	印刷業（営業担当）		・景気が良くなる材料はなく、周囲からも良くなる話は聞かれない。
	鉄鋼業（経営者）		・取引先企業からの受注量は、エコカー補助金の終了に合わせて9月から減少することが見込まれる。また、円高によって製造業全体の雰囲気も非常に悪く、設備投資の動きも抑えられている。
	一般機械器具製造業（営業担当）		・円高によって、売上の大多数を占める北米市場では、値引きしても外国メーカーとの価格競争に勝つどころか、土俵にも上がれない状況が続いている。このまま円高が続けば、北米市場で新規に受注することは不可能になり、収益は大幅に悪化する。
	電気機械器具製造業（営業担当）		・円高がどこまで進むか、懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		電気機械器具製造業（経営者）	・原材料である鉄鋼の値上げの話題が出ている。円高によって現状でも精一杯のなか、今後値上げが実施された場合には、ますます受注減につながる。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・下期はあまりに不透明であり、生産計画も抑制気味である。	
		輸送業（経営者）	・円高が進んでおり、製造業を中心に生産計画の下方修正をしている。今後は物量も減少する。	
		輸送業（従業員）	・石油製品の価格が上がり、軽油やフェリー料金等のコストも大幅に増加して、経営は非常に苦しい。また、円高で部品関係の製造業を始め、国内製造業の空洞化が心配される。輸出関連企業の業績悪化は、賃金や賞与を抑制し、購買力を低下させる。	
		輸送業（エリア担当）	・荷物量の減少が予想されることに加えて、価格転嫁もできない。	
		輸送業（エリア担当）	・荷動きは、一部の企業を除いて非常に悪い。公共工事も動かない状況にあり、いつ動き出すのか見当も付かない。	
		金融業（法人営業担当）	・エコカー補助金の終了に伴う生産減少に加えて、円高に伴う輸出の減少が予想される。	
		不動産業（管理担当）	・円高が続けば、今後も成約は減少する。	
		会計事務所（職員）	・円高、株安が進み、輸出業者は頭を抱えている。輸入業者は円高で恩恵を受けているように思われるが、決済がドル建てから円建てに変更させられており、恩恵を受けられなくなっている。相手国も必死の対策を講じてきている。	
		悪くなる	金属製品製造業（経営者）	・見積価格の下落と引き合いの減少が続いており、今後は一段と厳しくなる。
			電気機械器具製造業（企画担当）	・急激な円高は、企業の対応能力を超えている。下期の業績に大きな影響を与える。政府の対応も後手にまわっている。
			輸送用機械器具製造業（財務担当）	・エコカー補助金の終了に伴い、10月からは生産調整を行う見込みである。
			輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・自動車部品の下請企業では、エコカー補助金が終了することに加えて、円高の影響もあり、売上は減少していく。
			不動産業（経営者）	・設備投資や建設関連の需要の激減は、当分続く。
経営コンサルタント	・正社員しか消費できない状況にあり、庶民にとっては苦しい状況が続く。不動産投資もなく、地価、家賃共に値下がりしている。今後この状況が改善することはなく、むしろ悪化していく。			
その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・例年この時期は予算目標に対する達成率が低いが、全国規模でかなり悪化しており、今後は一段と厳しくなる。			
雇用 関連	良くなる やや良くなる	人材派遣会社（経営企画）	・顧客の研究開発需要は、今後も引き続き増加することが見込まれるため。	
		職業安定所（所長）	・求人数は、やや増加する見込みである。	
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・正社員採用があっても、有能な人材をより選別して採用しようとしているため、今後も求人数は大幅には増えていかない。	
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・円高等の影響により、取引先製造業の動きは非常に不透明である。	
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・当県の求人広告は、自動車関連企業の動きに影響されることが多い。今後エコカー補助金が終了し、円高状態が続けば、回復はまだ望めない。	
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・新卒募集の状況は、雇用の長期展望を見るうえで参考になるが、前年同月比55%と最悪の状態にある。前々年と比較すると40%程度に止まっており、ITバブル崩壊後の2002年を下回り、1991年のバブル崩壊後で最低である。製造業が新規雇用に慎重であるため、全体の求人押し下げている。雇用環境の悪化は、今後もしばらく続く。	
		職業安定所（職員）	・新規求職者数は減少傾向にあるが、新規求人数は横ばいになってきており、今後は現状並みが続く。	
		職業安定所（職員）	・企業によると、エコカー補助金が終了するため、先行きの見通しはなかなかつかないとのことである。求人は今後もまだ増えず、あまり変わらない。	
		職業安定所（職員）	・エコカー補助金の終了後は不透明感が強く、今の状況が今後も継続する。	
		学校〔大学〕（就職担当）	・雇用が増加する要素は見つからない。	
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・現時点での9、10月の予約件数は、例年に比べて少ない。	
		人材派遣会社（営業担当）	・エコカー補助金の終了に伴い、自動車メーカーを取り巻く企業の動きも慎重になっていく。	
		求人情報誌製作会社（企画担当）	・エコカー補助金の終了後を見越して、製造業では雇用を手控える動きがある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・企業からの募集状況をみると、秋口まではやや改善が続くものの、それ以降は先行きが見えない様子である。数か月先は、今よりも悪くなる。
		職業安定所（職員）	・エコカー補助金に伴う増産体制は、補助金終了を控えて終わりつつある。その一方で、多くの産業では、円高の影響が懸念され始めている。
	悪くなる	人材派遣会社（支店長）	・円高、株安により、輸出企業では業績の悪化が懸念される。また、自動車関連企業では、エコカー補助金の終了によって減産し、期間従業員の失業も発生する。人材派遣業界では、労働者派遣法改正の影響により、一部の派遣契約が終了する可能性がある。
	職業安定所（職員）	・企業からは、エコカー補助金終了後や円高を懸念する声が聞かれる。今後の状況は厳しい。	

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	家電量販店（店長）	・引き続きテレビの販売数は前年比大幅に伸び続ける。年内は家電エコポイントもあり好調のまま続きそうである。
		タクシー運転手	・10月に全国的なイベント「ねんりんピック」の開催が予定され、選手団や関係者が2万人規模で全国から訪れるので期待できる。
		通信会社（営業担当）	・スマートフォンに対する客の意識も変わり始め、新商品も続々発売される予定があるため、販売数に直結する。
	変わらない	商店街（代表者）	・購買意欲の増す要因が見受けられない。
		商店街（代表者）	・お盆を過ぎて、例年なら衣料品店では秋冬物の展開が大々的に始まっているが、これだけ暑いとまだ夏物の占める割合が多く単価も低い。一気に寒くなると、秋物の需要がなくなり売り上げにも影響しそうだ。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・通常は暇な時期に入り、高額商品が売れなくなる。また、良くなる要因、悪くなる要因どちらも考えられない。
		百貨店（営業担当）	・猛暑の反面、秋の訪れが遅くなることを危惧している。例年この時期、秋物が購買単価を上げているが、今年はまだ夏物が必要であり、セール品やバーゲンなどにより購買単価を下げている。秋物商戦のスタートとしては鈍化するであろう。
		百貨店（営業担当）	・前年同時期と比較すると客の購買意欲が高まっている様子が見受けられるが、実績は前年をクリアできていない。客単価、買上率などを見ると前年実績に追いつくにはまだまだ厳しいと感じている。
		スーパー（店長）	・今後良くなる材料が見当たらないと同時に、悪くなる材料も見当たらない。ただ、暑さが続けば、ある一定の商品群に対しては需要が高まる。気候の変動は大きな影響をもたらすし、通常売れなければならないものが売れず、売れなくても良いものが売れている。夏商材がそろそろ品薄になり、全体的な底上げにはならない。
		スーパー（店長）	・猛暑から「暖秋」までの消費動向が不透明である。「寒冬」へ急激につながれば、冬物商材への消費が活発になる期待感を持つが、生活防衛型の消費動向は、不透明感が払しょくされない限り変わらない。
		スーパー（店長）	・たばこの値上げに伴い、9月末までは多少の期待はできるが、景気回復につながる要素が見当たらない。
		コンビニ（経営者）	・競争はますます激化している。たばこの値上げを控え、売上は一時的に上昇するが全体的に影響を与えるものではない。
		コンビニ（店舗管理）	・相変わらず、価格訴求商品・値引き商品への反応が良い。
		衣料品専門店（経営者）	・残暑のため、晩夏初秋物が順調に売れず、在庫として残ってしまいそうである。
衣料品専門店（総括）		・景気が上がるような要素が特に無い。ここ数か月何も変わっていないので、今後も変わらない。	
家電量販店（経営者）	・家電エコポイント終了まではテレビ、冷蔵庫、エアコンの売上は期待できるがそのほかの商品はわからない。		
乗用車販売店（経営者）	・現状は大きく変わりそうになく、エコカー補助金での市場の拡大から沈静化への反動を最小限にする対策が急務である。		
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・客の中には、仕事が減っても増える見込みがないとする声が多い。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・今よりも更に悪くなるのではという不安が最近出てきたが、大きな変化はそれほど見られない。		
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊者数の伸び悩みとレストラン利用客数の回復が見通せず、減収見込みとなっている。		
		旅行代理店（従業員）	・さしたる海外イベントも見当たらず、上海万博や平城京遷都1300年にも客の需要を喚起させられるだけのパワーが感じられない。		
		タクシー運転手	・全体的に静かだが、9月はじめのイベントでの盛り上がり期待している。		
		通信会社（営業担当）	・携帯電話は新規機種種の購買については相変わらず消極的で、総販売数に対し客単価は低迷している。人気の機種に動きがあるのは間違いないが、全体として動きが鈍い状況が続いている。		
		通信会社（役員）	・家電エコポイントの終了を平成22年12月に控え、デジタルテレビへの買い替えはますます進むと考えられ、それに伴いデジタル契約の新規・移行申込みも増加するものと期待している。		
		美容室（経営者）	・徐々によくなることはあってもV字回復する雰囲気ではない。		
		住宅販売会社（経営者）	・来客数の動きから推測すると変わらない。		
		住宅販売会社（従業員）	・前年と比較すれば、販売量、来客数ともに増えているが、客層は限定的であり今後さらに販売量が増加する力強さは感じられない。		
		住宅販売会社（従業員）	・株安、円高など企業の業績に大きな影響を与える問題が多く、秋以降経済状況は不透明感が強い。		
		住宅販売会社（従業員）	・住宅金融支援機構の長期固定金利住宅ローンのフラット35Sの金利優遇が年内申込のため、追い込みには期待したいが、現実には難しいと感じる。		
		やや悪くなる		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・向こう2～3か月は、製造業では仕事があり稼働率も高いとの話も聞かれるものの、その先が不透明である。まだまだ景気が良くなってきた恩恵がなく心配である。
				一般小売店〔書籍〕（従業員）	・政治の情勢もよくなり、これといった景気対策もなく、購買数が伸びるとは考えられない。
				百貨店（売場主任）	・今後、円高による中小企業からの受注が低迷してくる。また、気温の低下が衣料品の販売にマイナスになる。
百貨店（売場担当）	・円高が進み企業業績が悪くなり、影響が出るであろう。				
スーパー（店長）	・県内は製造業が多いため、円高、株安傾向が続けば、消費者の消費マインドは上がらないであろう。				
スーパー（総務担当）	・円高の影響で製造業の景気が危惧される。またエコカー補助金が9月で終了するため、自動車業界が低迷する場合は消費にもマイナス効果となる。				
コンビニ（経営者）	・たばこの値上げにより、9月は特需が見込まれる。一方、10月はその反動が予想され、相当程度落ち込むと予想する。				
コンビニ（店長）	・猛暑の影響を受け、氷菓や清涼飲料水などが売れている現状から考えると、その他の通常の商品が特別に売れているわけではないため、天候が落ち着けば売上は低下するであろう。				
衣料品専門店（経営者）	・非常に暑い夏が続いており、秋物の出足が相当遅れることを懸念している。遅れるだけなら良いが、秋物が1～2か月陳列されないことも考えられる。				
乗用車販売店（経理担当）	・エコカー補助金の廃止が近づくなか、受注状況は悪くなっている。10月以降の販売状況に影響してくる。				
自動車備品販売店（従業員）	・10月以降、新車需要が落ち込むと予想されており、新規装着用品の低迷が予想される。				
その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・猛暑の影響で夏物商品がここ2～3年にないほど良く売れたが、天候が平常に戻ったとき、来店動機になるものが見当たらない。				
高級レストラン（スタッフ）	・前年は、9月の大型連休があつてにぎわったが今年は受注に勢いが無い。例年の約8割に留まっている。				
一般レストラン（スタッフ）	・今年の猛暑で米は豊作だが野菜類は高騰している。食品類の高騰は家計圧迫、原材料の高騰にも直結し、プチぜいたくが影を潜め財布のひもがまた固くなる。				
スナック（経営者）	・客との会話では、「良くなりつつあったところに、円高による差損が発生」といった雰囲気があり、今後3～4か月先は大変になりそうで、重苦しい状況になっている。				
観光型旅館（経営者）	・秋の団体シーズンに向けての問い合わせや見積りは、宿泊単価の低下など前年より厳しい条件になっている。				

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		観光型旅館（スタッフ）	・9月以降の予約状況は97%から81%の間で推移している。秋の行楽シーズンで売上を確保しなければならないが、予約の伸びは鈍化している。冬場が更に厳しくなれば、年間で前年割れもあり得る。		
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約は低調に推移している。		
		旅行代理店（従業員）	・将来不安がますます増大している。北陸地区は円高の影響を受ける業種が多く心配であり、不要不急の旅行業は受難の時期を迎える。		
		通信会社（職員）	・円高・株安・米国経済の低迷などに加え国内政局の不安定要因が重なるなど、下期に向けて地元企業の収益悪化が予想される。年末にかけて相当なプラス要因が出てこない、下向きに敏感になる心理状態が続くものと思われる。ただ、国道の通行量は増加傾向にあることなどから急速な悪化はないものと予測する。		
		通信会社（社員）	・円高と株安傾向が続けば、回復基調にブレーキがかかるおそれありという懸念が多く聞かれる。		
		テーマパーク（職員）	・販売単価の5～6%の下落率は急激な回復が望めない。今後3か月の予約状況は、前年同月比やや厳しい内容となっている。特に一般団体の予約がやや悪く、また、円高による海外からの観光客も鈍る可能性があり、全体としてやや悪くなる見込みである。		
		競輪場（職員）	・売上が全体的に低下傾向である。		
		住宅販売会社（従業員）	・住宅版エコポイントの一服感がでてきたのかりフォームも一時の勢いが薄れている。		
		悪くなる		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	・良くなるような話が全くない。即効性のある景気対策を求めたい。
				乗用車販売店（経営者）	・エコカー購入補助金がなくなり、また、需要の先食いもあり、新車購入対象者がしばらく無い。
住関連専門店（店長）	・どう考えても良くなる要因が見当たらない。現役世代が需要を引っ張っていかないと景気は上がってこない。この世代が節約するようでは景気が上がる見込みが立たないのが現状である。				
企業動向関連	良くなる やや良くなる	-	-		
		食料品製造業（企画担当）	・秋以降の販売品目の主流が変わってくるなかで、秋冬商材のおでんを中心とした商品群を取り揃え、販売の強化を進めている。商材の評価は良いとの声が多いことから、数量的に大きく伸びることを予測している。		
		輸送業（配車担当）	・売上は増加しているが軽油が高く利益としては変わらない。円高で原油価格が下がれば利益が出る。		
	変わらない	化学工業（総務担当）	・受注先の予定については、増加予定ではあるがまだまだ不透明である。		
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・住宅市場が回復するには、3か月、6か月単位ではなく、1年、2年必要であり、しばらくは現状が続く。		
		電気機械器具製造業（経理担当）	・円高とエコカー補助金の終了を機にこの先の不透明感が強くなっている。		
		精密機械器具製造業（経営者）	・ここしばらくは他社メーカーも含め、一時期よりは仕事量も増えている感触がある。ただ、円高への流れも含め、年末までこのまま続くかどうかは疑問である。		
		通信業（営業担当）	・電話機の設備更改は、製造業からの需要が少し出てきた。逆にサービス業が停滞している。		
		金融業（融資担当）	・現状の円高が進展するようでは、景気に影響が出てくるが、ただ、政府や日銀も対策を検討しており、現状水準で推移すると思われる。		
		不動産業（経営者）	・個人取引も法人関係も今後の状況が活発になるとする客は少ない。		
		司法書士	・久しぶりに会社の設立案件が複数あったが、一方で建設業者、不動産業者からは仕事がないという話もよく聞く。		
	やや悪くなる		繊維工業（経営者）	・国内市況の回復感が一服するとともに、円高の影響が懸念され、先行きに不透明感が出ている。	
			繊維工業（経営者）	・自動車関係のエコ対策の機器向けの産業資材は期待ができるものの、急激な円高、残暑厳しいなか秋物が売れない状況があり、不安材料も多い。	
			金属製品製造業（経営者）	・2、3か月先の受注の入り具合は、現状を下回っている。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	・輸出がある程度あり、ここへきての急激な円高は収益に大きな影響がある。また、国内についても設備投資が相変わらず冷え込んでおり、回復が見えない。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般機械器具製造業（総務担当）	・当社の主力市場は米国、欧州であり、円高で海外からの受注が止まる可能性がある。この影響で今年末にかけて企業規模の縮小も考える必要がある。
		輸送業（配車担当）	・9月にエコカー補助金が終了することにより、車関連の部品、カーシートや繊維関連が動かなくなる。この状況が今後しばらく続く。
		金融業（融資担当）	・為替の変動、株価の下落に対して政策の発動が遅れている。政府から追加経済対策が出たが、限定的、市場の予想の範囲内であり、効果も限定的と考えられる。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・折込枚数は横ばいだがチラシサイズが小さくなっている。
		税理士（所長）	・建設や工場の設備機械など設備投資関連の客は失速が急である。また、大手の下請けのメーカーも受注単価の見直しを迫られており、価格面で厳しい要請がある。従業員の給料が上がらない原因のひとつであろう。アパレルでも秋物の不振が予想され、商品の選択を間違った小売は心配である。
悪くなる		建設業（経営者）	・前年秋に中小企業向けの緊急融資が実施されたが、その返済が1年経過後のこの秋から始まることにより、資金繰りが悪化し経営破たんする建設業者が増大すると予想される。
		建設業（総務担当）	・受注価格競争が厳しさを増すなか、一方で建設資材価格に値上げの兆候が出始めており、ますます厳しい状況が見込まれる。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求職者数が増加している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・必要最低限・期間限定での需要は多くはないが発生している。人材の高度なスキルを要求されるので成約が厳しい。
		人材派遣会社（社員）	・新規投資への慎重さが続いており、そのための求人も少ない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・大規模な雇用の話が出てこない。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は上昇傾向にあるが、正社員求人の伸びは鈍い。正社員有効求人倍率は0.3倍台であり、依然として雇用失業情勢は厳しい。特に正社員を希望する若年者の就職環境は厳しい。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・新規高卒者の求人受理件数が前年同月比2割減と減少傾向が続いている。
民間職業紹介機関（経営者）		・労働者派遣法改正関連や当局の規制強化指導により、企業は派遣対応に慎重である。また、人件費が増大する直接採用にも慎重である。雇用そのものが抑えられている。	
悪くなる	-	-	

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	家電量販店（店長）	・12月末で省エネ家電のエコポイント制度が期限切れとなるため、年末はテレビの需要が更に加速する。問題はメーカーの生産量であり、今年3月のように供給が足りない状況になれば、悪影響が大きい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊、宴会共に前年を上回る予約率で推移している。宴会部門では会議の予約が減少しているものの、宴会予約は好調である。宿泊部門も単価こそ伸びていないが、予約率は前年を上回っている。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・9、10月は各種の集客イベントも多く開催されるため、猛暑が落ち着いた涼しくなれば来客数も増える。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・猛暑が一段落すれば、客足が戻るほか、生ものも売れ始める。
		一般小売店〔菓子〕（経営者）	・今夏のような異常気象でなければ、通常の売上に回復する。
		スーパー（社員）	・春以降、売上の回復している店舗が確実に増えており、特に品質の良い高額商品の動きが良くなっている。この傾向は景気に左右されず、しばらくの間は続く。
		コンビニ（店長）	・厳しい残暑で9、10月は高い気温が続くため、前年の売上はクリアできる。また、たばこの値上げもあるため、今後3か月については売上が一時的に増加する。
家電量販店（経営者）	・省エネ家電のエコポイント制度が12月に終了するため、年末は駆け込み需要で一時的に良くなる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・近隣の新築マンションで入居が始まるため、多少は来客数が増える。ただし、今年は残暑が厳しいため、どの程度増えるかは不透明である。
		スナック（経営者）	・月末になって客足が少し出てきた。今月は最悪であったため、少しはましになる。
		通信会社（社員）	・来年には地上デジタル放送が始まるため、年末にかけて売上増につながる。
		パチンコ店（店員）	・季節的に少し落ち着くほか、夏のイベントによる成果が出てくる。
	変わらない	商店街（代表者）	・まだまだ暑さが続くため、秋物商材の売上が悪化するほか、先行き不透明感が消費マインドに悪影響を与える。
		商店街（代表者）	・猛暑の影響で人出が少ないほか、客単価も低いいため、先行きの見通しも明るくない。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・9月は初秋物の動く時期であるが、売行きについては不透明である。ここまで何とか生き残ってきたアパレル業界であるが、この暑さとどう戦えばよいか分からない。
		一般小売店〔花〕（経営者）	・景気回復の材料が見当たらない。異常気象で生鮮品の単価が上がれば、衣食住に限らず買い控えが起きる。
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	・株安、円高で先行き不安が一層高まっており、年末までは特に冷え込む気配がある。今夏は猛暑の恩恵を受けた業種もあったが、これから数か月は非常に不透明な状況となる。
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・町の商店では依然として販売量が増えず、低迷が続いているなど、明るい兆しが全くない。
		一般小売店〔カメラ〕（販売担当）	・客の様子が明るいままで推移すればよいが、先行きには不安要素が多い。
		百貨店（売場主任）	・円高、株安の影響で、特に高額品の購買意欲に水が差される。
		百貨店（売場主任）	・大きく顧客数が増えるわけではないため、競合相手が減るなどの環境が改善しない限り、状況が大きく変わることはない。
		百貨店（企画担当）	・今後も残暑が続くため、季節衣料が動かない。
		百貨店（企画担当）	・世界的な経済の低迷に加え、不安定な政治、株価の低迷、円高の進行といったマイナス材料が当分消えないため、非常に厳しい状況が続く。
		百貨店（営業担当）	・高額品を購入する一部の顧客の動きは今後も変わらない。ただし、富裕客であっても、必要に迫られない宝飾品や美術品などの買い控えは更に進む。
		百貨店（婦人服担当）	・販売量は回復しつつあるが、残暑が厳しく秋物商戦に支障が出ているため、今後2、3か月は厳しい状況となる。
		百貨店（サービス担当）	・今後、来客数の増加策を導入するほか、物産展の開催で前年の売上確保を進める。また、新しい商業施設のオープンによる集客効果も出てくる。
		百貨店（店長）	・今月は猛暑にもかかわらず、食料品をはじめとする売上は前年並みとなった。ただし、政治不安のほか、株価や為替の先行きも不透明なため、今後も今の状態がしばらく続く。
		百貨店（売場担当）	・ボリューム商品では、季節を先取りした動きはまだ増えていないものの、ジャストシーズンの商品は価格に見合った高付加価値品もよく売れるなど、価格の低下に歯止めが掛かりつつある。ただし、株価の上昇は難しいため、高額品の売行きは低迷する。
		スーパー（経営者）	・今後は価格競争が一段と激しくなる。
		スーパー（経営者）	・来客数は維持できているが、単価の下落に歯止めが掛からない。食料品がこの様子では、景気の回復感が出てくるのはまだ先である。
		スーパー（経営者）	・秋口は気温が高めで推移する予想もあり、1品単価の下落も考えられる。季節商材の動きが悪くなれば、客単価も上がらない。また、円高の長期化で近隣の工場では工員数を減らすなど、客の所得環境も悪化が進む。円高還元セールを行っても需要を押し上げるほどではないため、最近の単価高からデフレ傾向に逆戻りすることもある。
		スーパー（店長）	・来客数の減少は、競合店の出店による影響が大きい。毎年、出店と閉店が繰り返され、徐々に飽和状態になりつつあるため、見通しは厳しい。
		スーパー（店長）	・売上の下げ止まった感はあるが、上向く要因もはっきりとは見当たらないため、しばらくは横ばいで推移する。
		スーパー（店長）	・猛暑や各種補助金による追い風がなくなり、今後は一度落ち着くか、下降トレンドに入る。株安や円高、政治不安などにより、9、10月は厳しい月となる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（企画担当）	・為替や食料油、小麦相場の変動はあるが、店舗全体への影響はあまりない。また、経営環境に与える影響の大きな競合の状況についても、大きくは変わらない。
		スーパー（経理担当）	・残暑による悪影響が懸念されるものの、おでんや鍋物商材が動き出す兆しもあり、売上は比較的底堅く推移する。
		スーパー（広報担当）	・厳しい残暑が予想されるため、秋冬物の売行きは悪化する。ただし、従来の低価格戦略だけでなく、年金支給日の販促や円高還元セール、訳ありセールなど、工夫した販売促進が客の来店動機につながりつつあるため、以前ほどの停滞感はない。
		スーパー（管理担当）	・消費の上向く材料が見当たらない。
		スーパー（販売担当）	・客の様子をみていると、チラシが出るたびに買い回りを行うため、今後も厳しい状況となる。
		スーパー（企画）	・今の好調は気温の影響が大きいため、秋になれば販売状況も大きく変わる。また、政治の混迷が続いており、全体的に明るい兆しはないため、景気が本格回復するまでにはまだ時間が掛かる。
		コンビニ（店員）	・半額コーナーの商品を求めて来店するなど、客の財布のひもが固くなっているため、今後も厳しい状況となる。
		家電量販店（店員）	・消費者の間では政治に対する不安があるため、見通しとしては厳しい。
		乗用車販売店（経営者）	・例年、年末に向かって人や物の動きが良くなる。今年も円高による輸入価格の低下が大きな要因となり、今後は良くなっていく。
		乗用車販売店（販売担当）	・大幅に悪くなる感はないが、最近の円高、株安に加えて政治不安もあるため、年明け以降も良くなることはない。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・天候不順が心配であるが、現状の水準は維持できる。
		一般レストラン（経営者）	・外食では低価格メニューにのみ動きが出てきているが、環境自体が更に好転することはない。また、消費マインドも不安定な状況が続く。
		一般レストラン（経営者）	・食品を中心とした物価の上昇により、客の財布のひもが更に固くなる。
		一般レストラン（経理担当）	・政治に対する不安や景気後退の懸念により、人出がますます悪くなっている。予約も少ないなど、先行きには明るい話題が少ない。
		観光型ホテル（経営者）	・今月の売上は例年並みであったが、猛暑で光熱費が増加したほか、機械の相次ぐ故障で経費が増え、利益が圧迫されている。今後は涼しくなるにつれて冷暖房費は減るが、婚礼シーズンで修繕費が増えてくるため、全体として良くなるとは言いがたい。
		観光型旅館（経営者）	・平城遷都1300年祭のイベントに客足が取られており、客の流れが悪くなっているため、今後も厳しい状況となる。
		観光型旅館（団体役員）	・宿泊単価は底を打ったものの、予約の動きが遅いため、今後も大きな変化はない。
		都市型ホテル（マネージャー）	・宿泊部門は円高による外国人観光客の減少が懸念されるものの、平城遷都1300年祭の終了を前に個人客の動きは悪くない。ただし、法人による会議や宴会の予約状況は芳しくない。
		都市型ホテル（営業担当）	・客室稼働率は伸びつつあるが、客室単価の値下げが常態化しており、売上は上がってこない。特に7月からは厳しくなっている。一般宴会も前月と同様に動きが止まっており、回復の兆しが見当たらない。
		旅行代理店（店長）	・先行きには明るい話題が少ない。
		旅行代理店（広報担当）	・今年は前年のような5連休がないため、9月の受注状況はかなり悪い。円高の影響で10、11月の欧州方面の予約は好調であるが、国内旅行の予約は減少している。
		タクシー運転手	・依然として良くなる要素が見当たらないため、当分の間は現状のままである。
		タクシー会社（経営者）	・外食を控える動きがかなり定着し、夜の食事や酒の付き合いも減っているため、夕方以降のタクシー利用は今後も増えない。昼間の利用も今のままで、公共交通機関の電車やバスが主に利用される。
		通信会社（経営者）	・通信事業者の上期決算は厳しくなる予想であり、代理店への手数料が削減される動きもある。また、12月までは大きな需要を喚起するような材料も見当たらない。
		通信会社（企画担当）	・好転する材料が見当たらない。
		テーマパーク（職員）	・過ごしやすい季節になれば観光などの外出は増えるものの、今夏の落ち込みをどの程度取り戻せるかは不透明である。今の景気動向では前年以上の結果にはなりにくい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光名所（経理担当）	・今年の夏は本当に酷暑そのもので、耐え難い暑さとなっている。当地も涼を求めて訪れる場所ではないほか、今年のお盆は曜日の巡りも悪かったため、来客数は前年比で減少している。ガラスの製作体験教室は前年よりも参加者が増えているものの、飲食、物販店は落ち込んでいる。今月の売上は前年比で5%減となっており、このまま残暑が続けば悪影響が尾を引く。
		美容室（経営者）	・今月は猛暑で昼間はなかなか客が来なかった。その反動で9～10月は集中的に良くなるものの、11月は再び減少する。
		美容室（店員）	・売上は平均的な水準で安定して推移しているため、下半期に入っても特に変わらない。
		その他サービス〔マッサージ〕（スタッフ）	・オイルマッサージは服を脱ぐため、毎年暑くなると客が増える。今年は一向に増える気配がなかったため、冬にかけても悪い状況が続く。
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	・レンタルの価格競争がなくなる限り、売上が前年を上回ることはない。
		住宅販売会社（経営者）	・不動産市場では供給過多になる可能性も払しょくできない。
		住宅販売会社（従業員）	・国内景気が停滞し、先行き不安が強まっているため、先行きの見通しは厳しい。
		住宅販売会社（従業員）	・マンション契約率は好調に推移しているが、賃貸オフィスは企業業績の悪化に伴い苦戦が続くため、不動産市況が全体的に悪くなる。それに伴い、住宅購入意欲も大きく伸びることはない。
		住宅販売会社（総務担当）	・住宅版エコポイントの期間延長や、住宅ローン金利の優遇措置の延長など、客の間で買い得感が続けば良い方向に向かう。ただし、今は現状維持が精一杯である。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・金融機関の融資姿勢によるが、業界全体に大きな変化はない。ただし、円高が止まらなければ景気全体は後退する。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・住宅版エコポイントの期間延長が検討されるなど、住宅需要の伸びる要素が出てきたものの、所得の増加がなければ全体的には厳しい。
	やや悪くなる	一般小売店〔時計〕（経営者）	・客からは相変わらず年金の話題が多く、将来や老後に対する不安が大きくなっている。大学生の客からもアルバイトがないといった話が多く、客の間に余裕がなくなっているため、先行きはやや悪くなる。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・残暑が厳しくなるため、秋物衣料の売行きに悪影響が出る。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・9月もまだ残暑が続く予想であり、秋物が売れるとは考えられないほか、今冬の気候もどうなるか分からないため、これから秋冬にかけて衣料品は厳しい状況に陥る。
		百貨店（売場主任）	・夏物商品は好調であるが、その反動で秋物衣料の出足が鈍いなど、秋冬商材の定価品は需要のサイクルが狂ってきている。さらに、株安や円高の影響で高額品の買い控えが進む可能性もある。百貨店の売上回復は外部要因にかかっているが、その大きな要素である景気動向や気候要因に不安がある。
		百貨店（売場主任）	・株安や円高、政治への不安感から、個人消費の回復は進まない。また、今年は暖冬が予想されるため、秋冬物の動きも低調なものとなる。
		百貨店（商品担当）	・これから多くの企業で雇用調整が進む。月収の減少も進んでおり、周囲では割増退職金を目的とした退職への応募も増えている。
		百貨店（マネージャー）	・円高、株安の傾向が今後好転する兆しはない。企業の海外資産価値が目減りし、外貨建て資産の為替差損も拡大するため、消費マインドや企業の設備投資などにもマイナスの影響が出る。
		スーパー（店長）	・猛暑特需は8月で終わり、9月以降は政治不信や円高、株安などの不安材料があるため、消費者の購買意欲は高まらない。
		スーパー（店長）	・衣料品や住居関連の秋物商材を展開しているが、厳しい残暑であまり動きがない。今年は秋物商戦が従来よりも短くなりそうで、夏物商戦が終わるとすぐに冬物商戦に入るため、衣料品が特に苦戦を強いられる。
		コンビニ（経営者）	・近隣のオフィスビルでは中小企業の移転、撤退が更に進んでおり、その後の入居予定もないため、当店への来客数は減少する。弁当類も価格の低下が続いているため、客単価も更に低下が進む。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店長）	・10月のたばこの値上げ前にまとめ買いが増えるため、9月の売上は相当伸びるが、10月以降はその反動でかなり落ち込む。
		コンビニ（広告担当）	・たばこの増税でまとめ買いが増えるものの、それも一時的な動きであり、増税をきっかけに禁煙や節煙が増える。それに伴い、ついで買いの多かった缶コーヒーなどの売上が落ち込む。
		コンビニ（店員）	・たばこの値上げが行われる10月以降は、たばこを買いに来る客が減少する。
		衣料品専門店（経営者）	・客は既に洋服を持っているため、流行が変わらない限り、売上が大きく伸びることはない。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・給料やボーナスが減少したという声が多いため、先行きはやや悪くなる。
		衣料品専門店（販売担当）	・今期に入ってから悪い状態が続いており、自社の新卒採用を見送るといった客もいる。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー補助金が終了すると、新車の販売台数も少なくなる。実際に9月以降は新車購入の予約状況が悪い。
		乗用車販売店（営業担当）	・エコカー補助金は延長しないが、市場ではそれに代わる対策が検討されているとの声がよく聞かれる。いずれにしても、期間の限られた対策では効果も一時的なものにとどまる。
		住関連専門店（店長）	・円高や政治不信が消費を更に鈍らせる。社会の先行きに明るい兆しがあり、それが持続しなければ、一度根づいた節約志向を変えることは難しい。
		住関連専門店（店員）	・このまま気温の下がる時期が遅れるようであれば、季節商品の購入時期が大きくずれる。例年の売上ピーク時期にも巻き返しが間に合わない。
		その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	・残暑が続けば、秋冬物への移行が遅れるため、見通しは厳しい。
		一般レストラン（スタッフ）	・夏休みに出費が増えた分、9月以降は節約が始まり、外食に出掛ける人が減る。
		一般レストラン（店員）	・円高による直接の打撃というよりも、円高による不安感が日常の消費を悪化させる。
		その他飲食〔ジャズバー〕（店員）	・たばこの増税を含め、日本の政治がどの方向へ行こうとしているかが分からない。先行きが不透明で不安な状況である。
		観光型ホテル（経営者）	・今の景気の状態から判断すると、平城遷都1300年祭のイベントが終われば悪くなる。
		観光型ホテル（経営者）	・今月はインターネット予約である程度の個人客を確保できたが、9月以降は激減するほか、団体客もここへきて例年よりも動きがかなり悪くなっている。
		都市型ホテル（支配人）	・急激に円高、株安が進んでいるなど、先行きの見込みはあまり良くない。
		都市型ホテル（総務担当）	・円高やエコカー補助金の期限切れにより、景気の更なる悪化が進む。
		旅行代理店（経営者）	・海外旅行にとって円高はプラス材料であるが、株安で景況感の悪化する影響が必ず出てくる。特に、国内旅行の落ち込みにつながる。
		観光名所（経理担当）	・春先からしばらくは順調に回復していたが、猛暑と高速道路料金の一部無料化もあり、今夏の来客数は前年を下回っている。また、園内の商業施設では客の財布のひもが一層固くなっており、売上も低下しているなど、先行きの見通しは厳しい。
		競輪場（職員）	・売上の回復につながるような情報もないなど、明るい兆しはない。
		その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・9、10月は人気アイドルグループのコンサートがあるため、来客数の増加につながる。ただし、プロ野球シーズンが終了する10月以降は、企業イベントが主となるため来客数は減少する。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・円高で海外からの観光客の動きにブレーキが掛かるほか、株価低迷で国内の行楽マインドも低下する。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・輸出関連企業の業績下振れリスクが高まるなか、消費者の間でも生活防衛意識が強まり、消費の減少が進む。
	悪くなる	商店街（代表者）	・気候や円高、政治不安などの影響で、個人や企業の動きが悪くなっているため、先行きの見通しは厳しい。
		一般小売店〔花〕（店長）	・円高、株安の影響で先行きは不透明となっており、今後も食料品を含めた買い控えが進む。
		一般小売店〔雑貨〕（店長）	・たばこの値上げが10月に実施されれば、更なる売上の落ち込みは避けられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー(店員)	・2、3か月で景気が良くなることはない。
		コンビニ(経営者)	・近隣に競合店がオープンするほか、移動販売車が日替わり弁当の販売を始めたため、先行きは悪くなる。
		衣料品専門店(経営者)	・円高のほか、既存の景気対策の終了、与党の公約が未実行であることなどが不安定要素となり、消費者の財布のひもが固くなる。
		乗用車販売店(経営者)	・エコカー補助金が9月で期限を迎えるため、その後は厳しい状況となる。
		乗用車販売店(経営者)	・エコカー補助金がなくなり、新車の買い控えが始まる。中古車も現時点では動きがないなど、今後期待できるような好材料がない。
		乗用車販売店(営業担当)	・エコカー補助金も終了するため、これからは本当に厳しくなる。
		乗用車販売店(営業担当)	・エコカー補助金の期限を前に受注を先取りしているため、しばらくはその反動で悪くなる。
		その他専門店[宝飾品](販売担当)	・円高によって旅行やブランド品の購入は増えても、宝飾品にまで恩恵が及ぶかどうかは分からない。販売価格の低下で多少売れたとしても、コストが同じように低下していなければ、利益は出ない。
		都市型ホテル(スタッフ)	・宿泊では、9月から月間千人を超える大口法人の利用が格安ホテルへ流出するため、大幅なマイナスとなる。宴会でも大型の会合が軒並み縮小となるなど、明るい見通しが全く立たない。
通信会社(店長)	・円高の影響が懸念される。このまま対応が遅れば先行きの状況は悪くなる。		
企業 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		食料品製造業(従業員)	・徐々に気候も穏やかになり、食品の売上も多少は良くなる。ただし、政治問題や円高といった悪いニュースも多く、最低限必要な商品以外は買い控えられるほか、需要が低額商品にシフトする。消費は多少増えるものの、価格競争が一層厳しくなるため、全体的には多少良くなる程度である。
		木材木製品製造業(経営者)	・今年中は業績の芳しくない状況が続くと予想されるものの、新規事業の動向次第ではかなり改善する。
		電気機械器具製造業(営業担当)	・少しずつではあるが受注が増えているため、先行きはやや良くなる。
		電気機械器具製造業(企画担当)	・新製品の受注量がどの程度増えるかであるが、いずれにしても先行きはやや良くなる。
		建設業(経営者)	・今後も円高が続くようであれば、海外の不動産ファンドによる購入意欲の低下につながるものの、先行きはやや良くなる。
	変わらない	広告代理店(営業担当)	・実感としてはまだ弱いものの、紙媒体、Web媒体共に広告量が増えつつあるため、先行きの動きはやや良くなる。
		その他非製造業[民間放送](従業員)	・営業部門の担当者との会話から、今後はやや良くなる感がある。
		家具及び木材木製品製造業(営業担当)	・受注量に変化がないため、今後も現在の状況が続く。
		化学工業(経営者)	・マスコミの報道による影響もあり、いつも同業他社からは先行きへの不安の声が聞かれる。将来に対する展望を持っている企業が少ない。
		窯業・土石製品製造業(経営者)	・3～6か月先は、受注、販売量共に大きく落ち込むことになる。
		金属製品製造業(総務担当)	・受注価格、売上共に、まだまだ厳しい状況が続く。
		一般機械器具製造業(経営者)	・受注量をみる限り、ここ数か月と同じような状況が続く。
		電気機械器具製造業(経営者)	・最近ではインフラ関連で設備投資の動きが増えているものの、なかなか受注が決まらないなど、不透明感が高まっている。
電気機械器具製造業(宣伝担当)	・エコポイント制度の延長など、消費刺激策による荷動きは見込まれるが、根本的な景気回復が進むわけではない。		
電気機械器具製造業(営業担当)	・円高が続けば、今後どのような影響が出るのかわからない。		
その他製造業[履物](団体職員)	・百貨店などの売上に改善がみられないため、今後も厳しい状況が続く。		
建設業(経営者)	・どの業界も同じであるが、価格競争が厳しく、仕事があっても利益にはつながりにくい。		
輸送業(営業所長)	・物流費の削減に関する話が増えており、見通しとしては厳しい。荷主から直接依頼された案件であれば様々な工夫もできるが、間に仲介業者が入る場合は単価も低く、話が進みにくい。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
やや悪くなる		新聞販売店〔広告〕(店主)	・底打ち感はあるものの、上向く気配が全くない。
		広告代理店(営業担当)	・現状は、一部を除いて広告出稿に積極的な業種が見当たらない。
		経営コンサルタント	・円高、株安といった状況にあるため、顧客企業の業績は現状維持か、もしくは悪化する。
		司法書士	・不動産は相変わらず動いていないほか、法人の設立や増資といった案件もない。好材料が見当たらないため、しばらくは現状のまま推移する。
		その他非製造業〔機械器具卸〕(経営者)	・先行きは不透明であり、見通しとしては良くない。
		繊維工業(団体職員)	・綿糸価格の高騰分が販売価格に十分転嫁できないため、採算の悪化につながる。
		繊維工業(総務担当)	・集客のための企画やアイデア次第で、催事の良し悪しが決まる。良い商品を提案するだけでなく、販売力がなければ売上を伸ばすことができない。今後は取引先へ出掛けることも増えるため、経費の増加につながる。
		繊維工業(総務担当)	・エコカー補助金の期限が近づいており、景気が二番底に陥る懸念も現実味を帯びてきている。靴下といえども、先行き不安で消費者が財布のひもを固くし始める。
		パルプ・紙・紙加工品製造業(経営者)	・円高の影響を受ける顧客からの受注減や値下げ要求が増える。
		化学工業(企画担当)	・一部の原料価格で高騰が続いており、ほかの原料にも波及する可能性が高いため、先行きの見通しは厳しい。
		金属製品製造業(経営者)	・極端な円高で企業が現地調達を進めるため、今まで輸出が支えてきた景気を維持できなくなる。
		金属製品製造業(管理担当)	・円高、株安の影響で、企業の設備投資が後回しになるため、製品が売れなくなる。
		電気機械器具製造業(経営者)	・国内の商談がなかなか盛り上がりせず、円高や株安の影響で取引先の大手企業も弱気になっている。当社も円高で利益率が低下しているため、今後しばらくは厳しい状況となる。
		電気機械器具製造業(企画担当)	・秋に向かって中小規模のマンションの完成が少なく、戸建住宅の販売も少なくなるため、業況は悪化に向かう。
		建設業(営業担当)	・建設市場の縮小により、受注量の確保のために合理化のあてもなく値下げ受注を行う企業が目立つ。生コンクリート業界でストライキの起こった背景にも、これらの事情が影響している。当面は上向く気配もない。
輸送業(営業担当)	・大手メーカーの海外生産が増えた影響で、中小企業の工場では荷物量の減少が相次いでいるため、先行きの見通しは厳しい。		
金融業(支店長)	・急激な円高がこれ以上続くと、企業全体の動きが非常に悪くなる。不動産関連の取引先でも、今後はサラリーマンや事業者による購入は見込めない。		
広告代理店(営業担当)	・9、10月は特に大きな販促の動きがないほか、残暑が長引く予報も出ているため、見通しは厳しい。		
経営コンサルタント	・エコポイント制度の効果は既に小さくなっているほか、期限前の駆け込み需要も少ない。さらに、円高に対する政府の対応の遅れにより、景気の悪化につながる。		
コピーサービス業(従業員)	・厳しい残暑により、しばらくは家電量販店や居酒屋からのポスター作成依頼が続く。一方、今春から好調であった教育関連の生徒募集のダイレクトメールは徐々に下火となっている。ダイレクトメール自体の効果が悪くなったのか、政治への不安で子ども手当の支給効果が薄れたのかは判断が難しい。		
悪くなる	化学工業(管理担当)	・今期の想定為替レートは1ドル90円であるが、予想以上の円高が進んでいるほか、米国経済の先行き不安で輸出量も減少する。また、エコカー補助金も9月で終了するため、先行きは悪くなる。	
	金属製品製造業(営業担当)	・円高と鋼材値上げの影響で輸出が伸びなくなっている。この状況が続けば、年末には仕事がなくなる。	
	一般機械器具製造業(設計担当)	・円高、株安で不安定な状態が続くほか、政治も不安定なままであるため、先行きの見通しは厳しい。	
	通信業(管理担当)	・政府、日銀の対応次第では、最悪の状況になることもあり得る。	
	不動産業(営業担当)	・当地域向けの荷物が減少し、海運業者の撤退にもつながっているなど、オフィス需要については今後も悪化が続く。	
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	民間職業紹介機関(職員)	・求人が増えているため、先行きはやや良くなる。ただし、日雇労働者が生活保護へ大量に緊急避難しているため、労働者不足が顕著となる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・景気を持ち直して派遣求人の増加に期待していたが、急激な円高により若干慎重にならざるを得ない。正社員求人が減る分、派遣求人が若干増える期待はあるものの、大きく伸びることはない。
		人材派遣会社（支店長）	・円高などの不安要素はあるものの、しばらくは求人数が大幅に減少することはない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・回復の動きが全く感じられず、今後2～3か月の広告受注は前年比で85%程度となっている。
		職業安定所（職員）	・求人増加傾向が鈍化しつつあるため、見通しは厳しい。求人内容も製造業などの一部の業種を除き、パートが中心となっている。先行き不透明感により、正規雇用、新規学卒といった長期雇用を手控え、非正規社員やパート採用で求人確保を図る傾向が強まっている。
		職業安定所（職員）	・雇用保険の適用事業者数や被保険者数は徐々に増加している。ただし、ここ数か月は新規求人数や新規求職者数、就職件数は横ばいで推移しており、急激に回復することはない。
		職業安定所（職員）	・エコカー補助金やエコポイント制度の終了、円高などで、事業所からは先行きが非常に不安といった声が多い。このところ続いてきた求人増の動きにも、今後は悪影響が出てくる。
		民間職業紹介機関（支社長）	・下半期に不透明感を抱いている企業も多いが、新規求人が減ってきているわけではない。これまでの採用抑制の反動や、今後注力する分野への人材投入といったプラスの要素に対し、円高による様子見や欧米の景気減速への警戒といったマイナスの要素が引っ張り合う状態がしばらく続く。
やや悪くなる		人材派遣会社（役員）	・政府による経済政策の方針が不明確で、市場が疑いの目を向けているため、円高、株安に歯止めが掛からない。これらによる経済への悪影響が、今後は様々な形で出てくる。
		人材派遣会社（支店長）	・急激な円高、株安により、先行きは不透明となっている。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・依然として有効な雇用対策が実行されていない。また今後は、急速な円高の進行で輸出が低迷するため、景気の悪化が進む。
		職業安定所（職員）	・円高、株安による影響で、輸出企業が大変厳しい状況となる。
		職業安定所（職員）	・円高の影響で企業の収益が悪化し始める。また、個人消費も落ち込むため、雇用情勢は今後厳しくなる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・円高の影響が始まっており、企業からは悲観的な声が多く聞かれる。
悪くなる		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・経済対策の効果が関西の各企業に浸透するまでには時間が掛かる。個々の企業の状況も異なるため、全体の底上げには思い切った政策が必要となる。

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	タクシー運転手	・イベントが開催されてもプラスには結びつかず、これ以上良くなることは考えられない。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・しのぎやすくなると街に出る気にもなることから、秋物商戦で当店も多少の恩恵を受ける。
		スーパー（経理担当）	・猛暑の影響で生鮮品の仕入価格が変動し、売上に影響している。
		コンビニ（エリア担当）	・いつまでも暑くはなく気温も変化しており、対応も検討していることから、今年、先月に比べやや良くなる。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・これまで来客数が前年を下回っていたが、客数の増加が続いており今後はやや良くなる。
		その他小売店〔ショッピングセンター〕（営業担当）	・単価が比較的高い高感度なファッションを扱っている店の売上が前年を超えている。
		タクシー運転手	・2年前とは同水準だが前年の状態より良くなっており、客からの話も国の安定や大きな物事の話が多く不安も少なくなっており、全体的にようやく光がみえてきて今後後退しないと断言できる状況になっている。
		通信会社（総務担当）	・販売量・来店者数が徐々に増えつつある。
		テーマパーク（業務担当）	・これから秋まつり等の大型行事開催による来園者の増加を見込んでいる。
		テーマパーク（管理担当）	・観光施設の来客数が増加することで消費も増えていく。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	テーマパーク（広報担当）	・団体ツアーの動きがあり、気候が安定すれば客足は回復する。
		商店街（代表者）	・中心市街地の商店街を取り巻く現状が、今後良い方向に変化する様子が感じられない。
		商店街（代表者）	・東北3品を扱う店をオープンした。客層は中高年で若者の関心は薄い。
		百貨店（販売促進担当）	・堅調であった高級ゾーンも、円高報道等で陰りがみえ始めてきている。また気象庁の長期予報では9～10月も高温推移するというので、秋物商戦の存在が危ぶまれることも想定される。
		百貨店（購買担当）	・これまで小売業では天候や気温の影響で売上が大変厳しい状況になることは考えられなかったが、今年に限ってはそのまま暑さが続き暖冬となると、秋冬物の動きも厳しくなる。アパレル関係も重衣料であるコート等は、薄くより長い秋に向けた商品の物作りをしていることから単価も上がらないため、厳しい状況から脱却することは難しい。
		百貨店（電算担当）	・全体の売上は前年比マイナス4.4%で、中元はマイナス2%、化粧品はプラス10%、レストランはマイナス6.2%となっており、消費者の財布は依然固いままである。酷暑の影響で秋物が動かないことに加え、夏物は商品がなく衣料関係は苦戦が続いている。
		百貨店（営業企画担当）	・猛暑の影響で秋物衣料の動きが懸念される。
		スーパー（店長）	・客単価、客数、販売点数がここ3か月一定で同じように推移しており、今後もその傾向は変わらない。
		スーパー（経営企画）	・来客数、売上はやや増加したが、1品単価、客単価の下げ止まり感はない。売上増加は猛暑による特殊要因とも考えられるので先行きに過度な期待はできない。客の声にも楽観的な要素は少ない。
		コンビニ（エリア担当）	・近くへの姉妹店の進出や新道の開通に伴う車の流れの変化等で売上が伸び悩んでいたが、猛暑の助けもあり、先月、今月共に客数・売上が上昇している。今後もわずかずつではあるがこの状況が継続する。また、9月は10月からのたばこの値上げに対する駆け込み需要に期待がもてる。
		コンビニ（営業担当）	・猛暑による一時的な景気回復はあるとしても継続的な回復は先の話である。
		衣料品専門店（経営者）	・猛暑割引70%に対する反応がない。
		衣料品専門店（店長）	・土、日の客数は平年並みである。例年この時期になると秋物が少しずつ動き始めるが、今年は気温の影響のため動きが鈍く先行きが不透明である。
		衣料品専門店（販売促進担当）	・今後は気候次第だが先物を購入する客が少なく、必要な時に必要な物しか購入しない客が増加しているため、厳しい状態は継続する。
		家電量販店（店長）	・全国的な猛暑で客も熱くなって欲しいが、財布のひもは今なお冷えきっている。エコポイント制度の駆け込み需要に期待している。
		家電量販店（店長）	・テレビを始めエコポイント対象商品は好調に推移すると思われるが、テレビの単価ダウンが顕著であり売上高の維持に留まる。
		自動車備品販売店（経営企画担当）	・冬期に入り新車販売の好調さから冬用タイヤの需要は高まるが、客の節約志向は相変わらずで楽観的見通しは立たない。
		その他専門店[時計]（経営者）	・円高、株安で富裕層の購買マインドは上がらず、当社のような装身具販売の売上は当分厳しい。
		その他専門店[布地]（経営者）	・追加の景気対策も打ち出されず円高も進んでおり、客は先行きの不安から財布のひもが固くなる。
		高級レストラン（スタッフ）	・今のところ予約状況は前年並みで推移しているが、先行き是不透明な状況である。
		スナック	・猛暑が厳しく客が出控えている。昼熱すぎて街中を人が歩いておらず、期待できない。
その他飲食[サービスエリア内レストラン]（支配人）	・良くなる材料が見当たらないが、数か月の動向から変化はない。		
都市型ホテル（従業員）	・個人消費が問われるレストランにおいては、依然苦戦が続いており、先行きは厳しい。		
都市型ホテル（スタッフ）	・秋口の宴会プランも安価なプランがほとんどで高単価のものは敬遠されており、景気が良くなっているとは言えない。		
通信会社（社員）	・サービス加入などの問い合わせ数に変動がない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（通信事業担当）	・アナログテレビ終了まで1年を切り、テレビ加入の問い合わせは増えており、一緒にインターネットの問い合わせも増えつつあるが、実際の加入にまでは結びついていない。
		通信会社（営業担当）	・客からの情報に新規ネットワーク構築の情報は少なく、現在の状況が変化するとは思われない。
		通信会社（営業担当）	・地上デジタル放送移行への関心は高まってきているが、多チャンネルサービスは相変わらず解約が高水準で、加入者数は停滞した状態が続いている。
		ゴルフ場（営業担当）	・天候によるコースの状態は良くなるが、単価は値崩れをおこしたままの状況で変わらない。他社も同じ考えをしており、単価の落ち込みは避けられない。
		競艇場（職員）	・しばらく集客に影響するレースが予定されておらず、状況は変わらない。
		設計事務所（経営者）	・最近の建築設計業界に明るい話題が少なく、今後の見通しも今は期待できない。
		設計事務所（経営者）	・住宅版エコポイント制度の効果は現在のところ感じられない。他に建築の景気が上向きような要素は全く見あたらない。
		住宅販売会社（従業員）	・来場状況に回復の兆しがないため、状況はあまり変わらない。
		住宅販売会社（販売担当）	・今月の来場数、販売量ともに先月に比べ減少しており、今後も厳しい状況が続く。
	やや悪くなる	一般小売店〔酒店〕（経営者）	・世界経済への不安や円高、2番底不安など先行き不安が購買意欲を低下させる。地元でも高温少雨の異常気象が農作物の生育に影響を与え、品質悪化、価格高騰となっており景気は停滞気味となる。
		一般小売店〔紙類〕（経営者）	・地元購入者である住民が基本的に高齢のため日々買物に出ることが難しく、全体として来客数が減少している。
		一般小売店〔印章〕（営業担当）	・当分新しいショッピングプラザと駅周辺のショッピングプラザに客が分散するので売上の減少は続く。
		百貨店（売場担当）	・残暑が厳しく秋物ファッションの売上が悪くなる。全般に倒産が続いているアクセサリーとハンドバッグ業界の取引先の体力が弱く、高額品は引き続き苦戦する。
		百貨店（売場担当）	・景気は下げ止まってくるが、商店街も含めた自己治癒能力が欠如しており、業績回復への見込みは厳しい。
		百貨店（販売担当）	・高気温も懸念されるが、今後もデフレ傾向が続き、客単価が低下しているなかで販売点数が同じであれば、前年実績を上回することは厳しい。
		スーパー（店長）	・身の回りで景気が良くなる材料は何も見当たらず、円高株安という条件も重なり、景気が良くなる見込みは全くたない。
		スーパー（店長）	・天候特に気温変化によるところが大きい。現在の状況が続くと例年に比べ秋冬物の動きが更に悪くなる。
		スーパー（開発担当）	・節約志向が浸透し、必要なものを必要な時に購入する客が定着しており、客数は伸びているものの客単価が低いため、前年実績を下回る状況が続いている。
		スーパー（販売担当）	・客は少しでも安い商品を求める傾向に変化はなく、ディスカウント店を利用しており、景気が上向きとは思えない。
		スーパー（管理担当）	・猛暑の影響で秋物から冬物の食品の量、価格が厳しくなる可能性が生じている。
		スーパー（営業システム担当）	・夏の猛暑で野菜の値上がりは避けられないが、客も必要なものしか購入しなくなる。
		コンビニ（エリア担当）	・政治的不安定さが目立ちすぎ全体的に不安を感じるため消費を控えざるをえない。
		コンビニ（エリア担当）	・猛暑でアイスクリーム、飲料等が売上が伸びているが、涼しくなればその反動が予測される。
		衣料品専門店（経営者）	・販売量の動きから景気がやや悪くなる。
		家電量販店（店長）	・酷暑による夏の需要も落ち着きの様相を見せており、年末の需要までは厳しい。ただ年末が近づくとつれ、少しずつ需要の拡大が見込めるため、厳しい状況も3か月程度である。
		乗用車販売店（経営者）	・行き過ぎた円高、株安が不安材料で先行き不透明であり、消費を抑える傾向にある。
		乗用車販売店（店長）	・エコカー購入補助金の駆け込み需要で大きく販売は伸びたが、10月以降の販売は全く不透明である。
		乗用車販売店（営業担当）	・エコカー購入補助金終了後の冷え込みが懸念される。ハイブリッドカーの発表では冷え込みを完全に止めることはできない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	一般レストラン（経営者）	・政治の不安定さと経済の先行き不安についてメディアが株価等でとりあげているため、顧客の不安感が増し、消費抑制がますます進む。また補助金ありきの景気・消費刺激の効果は失速しつつある。
		観光型ホテル（支配人）	・周辺には自動車関連の企業が多く、最近の円高で生産に与える影響は大きい。心理的不安は財布のひもを固くし、ホテルの業績にはマイナスとなっている。
		都市型ホテル（企画担当）	・円高による海外客の減少及び輸出企業の売上減少による影響で、ホテル利用の抑制を懸念している。
		都市型ホテル（総支配人）	・10月以降については市内で大きなコンベンションがなく、宿泊・宴会とともに前年予約を下回っている状況から減収が見込まれる。
		旅行代理店（経営者）	・現在の景気回復への施策が消費者に反映されておらず、企業においても全く同様で旅行に行く兆しがみえない。
		通信会社（企画担当）	・先が見えず漠然とした不安感が漂っている。停滞を突破しようという動きは個別にいろいろあるが、突破できていない結果が多く、現況は3か月後にも引きずった影響を与える。
		通信会社（広報担当）	・株価や円相場の状況が改善しなければ、報道により消費者に不安心理が走り、消費の落ち込みが懸念される。
		美容室（経営者）	・通常売上は悪い月もあれば良い月もあるが今は悪くなる一方非常に厳しい。
		美容室（経営者）	・活気が出てきておらずこのまま下降しながら推移する。
	住宅販売会社（経理担当）	・今後の追加経済対策の内容によっては、需要が大きく落ち込むことが想定される。特に住宅エコポイントやフラット35の金利優遇策については、継続が望まれる。	
	商店街（代表者）	・経済、政治等様々な問題で先行きが全く見通せないため、客の購買意欲が減少している。生活防衛のため金は使わないという姿勢が客の様子からありありとわかる。今後どうなるのか非常に不安であり、業界の存亡についても危機的な状況にある。	
	一般小売店〔茶〕（経営者）	・全く先が見えず、弊社が開拓した海外の販売先も前年比を下回っている。	
	スーパー（店長）	・夏場の猛暑での出費により、今後の消費は節約傾向になる。夏場の販売好調、収入が増えての消費増ではなく、しかたなく消費した感が強く、今後いっそう節約、財布のひもは固くなる。	
	スーパー（財務担当）	・大手の円高還元セール等も1点単価の下落に拍車をかけ、ますます客単価が下落している。	
	コンビニ（営業担当）	・たばこ増税により客数が減少する。	
	乗用車販売店（統括）	・10月以降エコカー購入補助金の終了で販売量は前年比80%と予測している。	
	乗用車販売店（副店長）	・エコカー購入補助金終了の影響は大きい。例えば10月以降車検を迎える客が補助金のあるうちにと、前倒しで購入しているケースも多く、来客数、販売台数共に大きく減少する。	
	乗用車販売店（サービス担当）	・エコカー購入補助金終了が販売量に大きく影響する。	
	乗用車販売店（業務担当）	・エコカー購入補助金の終了に伴い、売上の低下は避けられない。	
住関連専門店（広告企画担当）	・単価・契約数に加え来客数も下がっており、良くなる要素は感じられない。		
一般レストラン（店長）	・これまで見られなかった飲み放題や食べ放題の店が増加し、競争は更に厳しくなる。		
都市型ホテル（支配人）	・直近での成約件数の伸びが悪く、特に宴会関係は客単価が低くなっており、競合他社との間で競い負けるケースが増えている。忘新年会や会議のシーズンに入るので、より競争が激化する。		
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・受注はあるが、価格は下がり量も減少する傾向にある。
		会計事務所（職員）	・製造業関連では、秋口以降受注はやや上向きになると見ている経営者が比較的多い。ただし、物販や物流関連の見通しは相変わらず厳しい。
	変わらない	農林水産業（従業者）	・イカ釣り船が若干良かった程度で、他の魚種は不振である。海水温度の上昇も影響しており、港での全般的な水揚げ高、水揚げ金額ともに低調に推移している。
		食料品製造業（総務担当）	・前年に比べ売上が伸びて好調であるが、秋から展開する商品の先行きが見えないことと、需給に応じて会社が雇用したい人が集まらないことが不安材料である。
	化学工業（総務担当）	・円高による影響が継続する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・高炉建設用材料の生産を計画していたが、競争が激しく受注の見込みが立たず、当面は現行の生産水準が継続する。		
		鉄鋼業（総務担当）	・エレクトロニクス関連の在庫調整は1～2か月程度で、その後の回復を期待している。円高による輸出品の減少が懸念される。		
		非鉄金属製造業（経理担当）	・景気全体の動きとはまだ言えないものの、部分的には液晶やエコカー分野で在庫調整の動きが報告されており、予測受注量が減ってきている。		
		一般機械器具製造業（経営企画担当）	・国内向けの自社製品の売上は回復に向かっていているが、海外向けは伸びは見られず、厳しい状況が続く。		
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・各種公的補助などの終了、円高・株安などもあり、先行きは全く不透明である。		
		建設業（経営者）	・公共事業も期待できず住宅関連も低調のままで、一部利益の出ている工場もあるが設備投資は少なく短期間で状況が変わることはない。低調なまま現状が推移する。		
		建設業（総務担当）	・受注予測が立てにくい状況がまだ数年続く。		
		通信業（営業企画担当）	・客からの受注量は上向いているが、9月中にある程度落ち着いてくる。取引先でも下期～来期に向けた動きについてはこれからの検討となっており、2、3か月先に関しては9月の動向を見ての判断となる。		
		金融業（業界情報担当）	・中国など新興国向けは好調が持続すると期待できるが、急速な円高により欧米向けは採算悪化が懸念され、全体では横ばい程度で推移する。		
		金融業（営業担当）	・業況について下げ止まりしている企業が多く、改善の兆しの一部では見えてきている。ただし、昨今の円高や株安などの外部環境の変化により、中小企業の会社経営者の心理は大きく悪化している。力強い景気の回復には、会社経営者が前向きな心理となる必要があるが、今後2、3か月でそのような状況になることは難しく、景気は変わらない。		
		広告代理店（営業担当）	・猛暑の勢いが衰えず、秋向き商戦の出足が悪い。企業がPRしても消費者が乗ってこないので広告も控えめで推移している。		
		コピーサービス業（管理担当）	・取引先が外部に金を流す考えはなく、この方向は当分変わらない。現在から将来にかけて、業績が回復基調にある業種へ顧客をシフトしていかないと自社の回復ができない。		
		やや悪くなる		食料品製造業（業務担当）	・各業界の景気刺激策が一段落することにより、個人向けの通販部門が伸び悩む。
				化学工業（経営者）	・急激な円高基調により、輸出関連製品用途の受注が減少している。
鉄鋼業（総務担当）	・弊社の大口顧客である自動車メーカーが下期は、エコカー購入補助金終了により上期に比べ減産となる。				
金属製品製造業（総務担当）	・受注量は現状と変わらないが、原材料価格の上昇で8月中旬以降鉄スクラップが値上がりしており、11月以降の他の鉄原料の値上がりも懸念材料となっている。				
電気機械器具製造業（総務担当）	・依然としてデフレスパイラルから脱出できず、また、それに対する具体策もないため消費の動きが鈍い。				
輸送業（運送担当）	・いまだ景気回復の兆しすらみえない状況で、運送業者の得意先も減り景気が悪くなるのは避けられない。				
悪くなる		木材木製品製造業（経理担当）	・急激な円高への対策がなされていない。		
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きが不透明である。		
		その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・現在円高が急激に進んでおり、日本の輸出産業は非常に痛手を被っている。日本の景気が良いならともかく、不景気のなかで更に円高が進んだ場合、日本経済にとって大打撃となる。		
雇用関連	良くなる やや良くなる	-	-		
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・現在、今年の10月にオープンする新卒サイトに掲載してもらうため、2012年度の新卒採用の営業活動を各企業に行っている。各企業ともインターネット媒体などに予算を確保して活動するとは限らないものの、景気の動向が少しずつ上向いている状況がみえ、2011年度は採用活動を中止していた企業も、2012年度では採用活動を再開するところが少しずつ増えてきている。		
		職業安定所（職員）	・建設業者、派遣、請負業者、サービス業者、製造業者からの求人申込件数、求人数は増加しており、円高、株安、政情不安など不透明な要因はあるものの、窓口において求人意欲は高まっている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・7月は新規求職者数、有効求職者数ともに減少した。求人は依然としてパート中心であるものの、製造業を中心に徐々に求人数が回復してきている。ただし卸小売業やサービス業においては消費低迷の影響が見られ、厳しい状況である。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	・期間限定の繁忙要員の派遣契約の多くは年内で区切りとなるものが多く、現時点では契約更新や延長は見込めない。特にエコカー購入補助金が終了するため、自動車関連の製造業の派遣依頼に影響が出ることを懸念している。
		求人情報誌製作会社（支社長）	・円高の影響がどこまで出るか不透明である。
		求人情報誌製作会社（サイト運営担当）	・2012年卒新卒採用に持ち直しの動きがある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・猛暑で食品飲料や家電は動いているが、エコカー購入補助金終了の影響もあり10月以降は厳しくなる。
		職業安定所（職員）	・中長期的には世界経済の動きに不透明感が出てきていることや、個人消費が引き続き厳しいことから見通しが立たず、常用求人の提出に慎重さがうかがえる。求人者からは、受注は増加しているが単価が低下しており、売上増にはつながらないとの声が聞かれる。
		民間職業紹介機関（職員）	・円高、エコカー購入補助金終了、米国情勢などを勘案し、経営者も次の一手をなかなか打ち出せない状況であるため、静観ムードが漂い、雇用や個人消費の押し上げには至らない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・求人状況については一時持ち直しの傾向が出つつあったが、ここにきて減少傾向を感じるような停滞状態になっている。
	悪くなる	-	-

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	商店街（代表者）	・10～11月の観光シーズンに、観光客の流入が多く見込まれる。その観光客が商店街で消費することにより地域経済が潤う。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・地元の魚を売り出す「新子（しんこ）まつり」など、不景気ながらも地域をあげたイベントが開催されるので期待したい。
		スーパー（店長）	・残暑が続いているため、飲料や夏物の動きが良く、今後も売上好調に推移する。
		衣料品専門店（経営者）	・8月後半の動きを見る限り、今後の販売動向に期待が持てる。
		衣料品専門店（副店長）	・地元商店街で大きいイベントがあるため、客単価、来客数とも良くなる。
		家電量販店（店長）	・エコポイントが12月末で終了するため、テレビ、冷蔵庫、エアコンの売上が更に弾みをつけて上昇する。
		観光型旅館（経営者）	・現在の予約状況から判断して、10～11月は上向くと予想している。
		タクシー運転手	・2～3か月後は、四国八十八箇所周りの仕事が増えてくる。
		通信会社（管理担当）	・新しいサービスの導入を予定している。
		通信会社（企画）	・現在の好感度がそのまま続く。
	変わらない	一般小売店〔酒〕（販売担当）	・景気が上向く要素がない限り、外食控えが続くなど消費者の購買意欲は向上しない。
		百貨店（営業担当）	・商品群により売上にばらつきが見られる。ヤング系のファッション関連商品は、単価の低下傾向が目立つが、販売数量は比較的好調に推移している。美術、宝飾品は、高額商品に動きが見られず販売数量は全体的に低調である。紳士用品も低調である。
		百貨店（販売促進担当）	・厳しい暑さが続いているため、秋物の動きが期待できない。
		百貨店（売場担当）	・家電エコポイントの終了が迫っているため、家電業界は活況が予想される。しかし、その他の支出は抑えられる。
		スーパー（店長）	・9月は、値上げ前のたばこ需要が見込まれる。しかし、食品は節約志向が定着しているので変化は少ない。
		コンビニ（店長）	・朝昼夕各ピークの来客が増加している。定価販売であるコンビニで買う余裕が出てきており、最悪の時期を脱したと考える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業		衣料品専門店(経営者)	・政府が景気対策を講じないと、業況は良くならない。
		衣料品専門店(総務担当)	・依然として厳しい暑さが残るとの予報が出ており、9月以降の秋物の販売への影響が大いに懸念される。客の財布のひもはなお固く、客単価は依然として低い。今後も厳しい商況が続く。
		一般レストラン(経営者)	・今後、業況が良くなる要素はない。
		一般レストラン(経営者)	・新聞の取材やインターネットの活用による広報活動や、流行を取り入れた新しいメニューを開発するなどの企業努力をして、前年の売上をなんとか上回っている状況である。
		タクシー運転手	・客の様子、単価に変動がないため、2～3か月先も良くなるとは思えない。
		通信会社(支店長)	・ここ数ヶ月、販売数に大きな変化は現れていない。
		ゴルフ場(従業員)	・現在の予約状況、来場者の入場者数、客単価からみて先行きはさほど変化がない。前年に比べても非常に悪い状況で、改善する雰囲気が見られない。
		美容室(経営者)	・状況は現在と変わらない。
	やや悪くなる	商店街(代表者)	・景気対策が出てこない、内需の拡大が期待できない上、外需は円高で厳しい。株価の低下に歯止めがかからない。
		一般小売店[乾物](店員)	・特に良くなる要素がない。
		百貨店(営業担当)	・今の経済状況や円高の状況は景気に対してマイナスである。
		スーパー(企画担当)	・猛暑のため、業況が良い状態が続いている。しかし、政局不安や円高の影響が大きくなり、今後、景気は後退する。
		スーパー(財務担当)	・円高、株安、デフレが続く一方で、有効な経済政策がない。
		コンビニ(総務)	・売上好調の要因である猛暑が落ち着いてくれば、また、夏前の業況に戻る。
		家電量販店(店員)	・「予定外にエアコンを買ったから、テレビは冬のボーナスが出てから考える」と、買い控えを予感させる発言を聞くようになった。
		家電量販店(営業担当)	・来客数が下落しており、前年水準の売上を維持できるか不安が残る。
		乗用車販売店(従業員)	・エコカー購入補助金制度終了後、業況は悪くなる。
		乗用車販売店(役員)	・エコカー購入補助金制度の終了後、売上は確実に下落する。たちまち急には落ちず、12月頃に大きな下落があると予想する。
		その他専門店[酒](経営者)	・今年は異常に暑いので、ビール、飲料水がよく売れている。しかし、暑さが落ち着くと販売は低下する。
		都市型ホテル(経営者)	・先行きの予約状況は良くない。また、政局が不安定なため、消費はまた低迷するのではないかと考える。
		旅行代理店(支店長)	・引き続き円高が進めば、目先の海外旅行の需要は好調に推移すると思われる。しかし、その反面、輸出産業への悪影響による景気の後退が心配である。そうすると、団体・出張需要の低下が懸念される。
		観光名所(職員)	・急激な円高によって、外国からの観光客が減少している。
	美容室(経営者)	・現在の円高・株価下落の傾向が改善されなければ閉塞感は続き、その結果、消費動向も抑えられてしまう。	
	悪くなる	スーパー(人事)	・業界内では、業務提携、連携など、強者がますます力をつけようとしており、中小小売業者にとってプラス要因がない。
		衣料品専門店(経営者)	・円高により企業の業績が圧迫され、従業員の給料が増えていない。このため買い控えが予想される。
		乗用車販売店(従業員)	・9月まで前倒して販売しているため、その反動で、10月以降の販売に大きな不安がある。しかも、販売量の落ち込みへの対策は今のところない。
		乗用車販売店(従業員)	・エコカー購入補助金制度が9月末で終了するため、10月以降の新車販売は、反動により大幅に減少することが予想される。
		乗用車販売店(営業担当)	・エコカー購入補助金制度により、需要の先取りをしている。
競艇場(職員)		・9月半ばより、施設改善工事が本格化するため1か月以上休催する。そのため、大幅な売上減少は避けられない。	
設計事務所(職員)		・今後、公共投資が持ち直すことは望めず、企業・家計では、なお一層経費削減が進む。特に、住宅ローンを組んでいる家計や、就学児を有する家計で、顕著となる。	
企業	良くなる	-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
動向 関連	やや良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・取引先の業況は非常に良い。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・受注価格は依然として値下げ要求が続いているが、年末に向かい、受注量が増加してくるものと思われる。
		輸送業（経営者）	・ここまで不安感が大きいと、企業は本気にならざるを得なくなる。
	変わらない	食料品製造業（従業員）	・円高で、原材料の輸入面ではメリットが出てくるが、国内市場の活性化には繋がらない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・国内設備投資及び海外からの受注も好転の兆しがみえない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・企業努力を続けていることから、受注は一定して伸びているが、飛び抜けて多くはない。
		通信業（部長）	・受注が増加しても、価格面の競合が一層厳しくなっているため、利益は増加しない。
		不動産業（経営者）	・法人、個人客とも、新たに設備投資等をすることに躊躇している。同業者や取引先から話を聞いても、相変わらず先行きの分からない状況が続いている。
		広告代理店（経営者）	・一部の大型ショッピングセンター以外は、消費低迷により広告費を削減している。また、自動車関係の広告は一時的に増えたが、エコカー購入補助金制度が9月末で終了予定のため、先行きは不透明である。
	やや悪くなる	鉄鋼業（総務・人事統括）	・円高の恩恵により、輸入原料価格が安いことから収益面は堅調に推移してきた。しかし、今後は販売先から値下げ圧力が増すであろう。また、エコカー購入補助金制度が9月末で終了するため、収益面の悪化も懸念される。
		電気機械器具製造業（経営者）	・急激な円高により、輸出産業の競争力低下が懸念される。
		輸送業（支店長）	・同業他社との競合が増加傾向にあることから、全体の輸送量（生産数量）は減少傾向にあると考える。
		通信業（営業担当）	・全体の景気が上向き、個人消費、支出が増加するという声が聞こえてこない。
		公認会計士	・関与先社長との話のなかで、「最近では、銀行からの借入れがスムーズにいかない」という話題が多くなっている。なかには、「借金の返済を迫られている」という話も聞く。資金繰り面を心配しているためか、不動産等の動きは止まっている。
	悪くなる	建設業（総務担当）	・競争がますます激化している。赤字覚悟でも受注量を確保するか、それとも利益を確保するかのジレンマが続く。
雇用 関連	良くなる	-	-
		やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）
	変わらない	求人情報誌製作会社（従業員）	・前年同期と比較して、求人数が増加している。
		職業安定所（職員）	・8月の月間有効求人倍率は、7月より0.03ポイント上回った。
		人材派遣会社（営業部長）	・円高による経済的ダメージが懸念されるため、求人数が停滞傾向にある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・病院と一部の葬儀社は忙しいが、それ以外は先行き不透明である。エコカー購入補助金制度が終了するため、カーディーラーの動向が特に不透明である。
		職業安定所（職員）	・政府の経済対策の効果がどの程度現れるものか、現在の状況では判断できない。
		職業安定所（職員）	・正社員の求人が不足しており、就職動向に変化はない。
	やや悪くなる	学校〔大学〕（就職担当）	・採用活動を終了する企業もでてきており、新卒求職者にとって厳しい状況が続いている。
		民間職業紹介機関（所長）	・公共事業がかなり減少してきており、業種を問わず影響が出てきている。公共事業が減少した分を民需でカバーしようとしている企業が多いが、うまくいっていない。
悪くなる	-	-	

10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般小売店〔生花〕（経営者）	・記録的な猛暑のなか、生花、切り花を購入する客は少ない。2、3か月後の涼しい時期になれば、多少は良くなるが、楽観できる状態ではない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・高額品の動きにはばらつきがあり、力強い景気の回復感を感じられない。一方で来客数は増加傾向にあり、客の購買意欲が少しずつ高まっている。
		百貨店（販売促進担当）	・猛暑が続き、夏物商材しか売れなかった。しかし少しずつ気候が良くなり、秋物商材に動きが始め、来客数や客単価が上がる。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・例年の秋物商品に加え、長引く残暑によって夏物商品も売れるため、例年より売上があがる。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・2、3か月先は外の気温が低くなり、コーヒーの消費量もやや増えるため、客の来店頻度は例年通りに増える。また、購入も秋口にかけて増える。
		観光旅館組合（職員）	・口蹄疫の影響も落ち着き、2～3か月後は紅葉シーズンでもあり、例年通りとはいかないまでも、少しは回復する。
		観光ホテル（総務担当）	・予約状況を見ると、10月の売上見込みが好調である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・来月以降は学会など大型宴席が多く、好調に推移する。また、宿泊部門も団体客の予約が多く、個人客も活発に動いている。
		タクシー運転手	・口蹄疫の移動制限解除により、幾分か人が動き出す。また暑さも和らぐため、外出する人が増え、タクシー利用者も増える。
		ゴルフ場（従業員）	・予約の状況を見ると、9～11月は順調に推移している。口蹄疫の影響で中止されたイベント等が動きつつある。官公庁のコンペや県外企業のコンペの予約が少しずつ入っており、来月よりは再来月、さらに年末に向かって少しずつ良い方向に向かう。
		ゴルフ場（支配人）	・来月いっぱいには厳しい残暑が残ると予想されているが、その後は例年並みの天候であるため、客入りも例年並みに回復する。
		美容室（店長）	・2、3か月先は結婚式等いろいろなイベントが多い季節であるため、少し予約が入っており、やや良くなる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・在宅介護をより重視し、認知症対策や高齢者住居対策を今後の柱とするとのプレス発表があったため、手厚い予算措置が期待できる。
設計事務所（所長）	・民間の住宅着工件数は冷え切っているが、公共事業の設計や計画が目白押しではないものの、数多く出る予定がある。		
変わらない		商店街（代表者）	・売れる商品の価格帯が、非常に低水準である。販売量は前年と同水準で推移しているが、単価が低いので売上が上がらない。客は将来に対する不安を抱えており、余分な買物を一切しなくなっている。
		商店街（代表者）	・2、3か月先はいくらか気候的に過ごしやすくなり、食欲の秋で良くなる。しかし周りに商店街やスーパーが多いため、やや厳しい。宣伝力が不足していることもあり、商店街に来てもらえるような施策を打ち出し、消費者の購買力の上昇につないでいきたい。
		商店街（代表者）	・前月、今月と客足が商店街から遠のいたため、来月はその反動でやや持ち直す。
		商店街（代表者）	・消費者に不安を与えるネガティブ報道が多く、商店街の売上も悪い状況が続く。商店街はますますシャッター通りとなっていく。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・景気の先行き不透明のため、今後も、家庭の支出が増えそうにない。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・涼しくなれば売上は伸びるが、販売単価が低い。日本茶は必需品ではないため、急激に伸びることがなく、今後もあまり期待できない。
		百貨店（営業担当）	・一部の商品に動きが出ており、富裕層の動きは良くなるが、ボリュームを支えている客層は、横ばい若しくはやや悪くなる。
		百貨店（営業担当）	・今月は、中元ギフトの買上単価を前年並みに確保したが、来客数や買上数量が前年割れをし、売上は前年割れとなった。届け先への商品選択を絞り込む慎重な姿勢が続いている。一方で通信販売やインターネットなど店外受注が伸びた。
		百貨店（営業企画担当）	・客の購買傾向は変わっておらず、大きなトレンドや特別な行事がない限り、購買を控える傾向が続く。
		百貨店（営業企画担当）	・景気の悪化は、一時的に下げ止まりの傾向であったが、急激な円高や株価の下落、景気回復策の具体的な施策等がみえない状況である。経済環境が悪化傾向にあり、客の購買意欲の変化はみられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（企画）	・リーマンショックの急激な落ち込みから2巡目に入り、現状より落ち込み幅が小さくなる。円高が長引けば消費者の購買意欲に影響が出るため、先行きは不透明である。
		百貨店（業務担当）	・エコカー購入補助金制度が終わり、景気刺激策も落ち着きをみせている。個人消費が持ち直した感がないまま、秋冬の商戦に突入するが、財布のひもはまだまだ固い。
		スーパー（店長）	・今後も円高の傾向が続くとみられ、消費者の購買意欲も含め、景気が良くなるような要因はみえない。
		スーパー（店長）	・エコポイント制度の終了、たばこの増税等の影響がこれから出てくるので、ますます客の財布のひもは固くなる。
		スーパー（店長）	・今年は残暑が長引くと予想されており、気温があまり下がらないため、冷房などの電気代の増加や昼食を簡単メニューにする傾向が続く。支出が増加した分だけ食品の節約はまだ続く。
		スーパー（企画担当）	・現状の社会情勢は継続する見通しが強い。また天候も猛暑や残暑が予想され、青果物の不作、高騰が懸念される。今後の景気回復は難しい。
		スーパー（経理担当）	・トレンドとしてデフレスパイラルとまではいかないが、消費が例年通りには戻っておらず、今後も緩やかな消費の縮小傾向が続く。
		スーパー（業務担当）	・政府の経済対策の方向性が明確に示されていないため、消費者はいかにして可処分所得を有効に使うか、という努力をする傾向が強くなっている。高単価商材や耐久消費財はメリットがないと売りにくい状況である。エコポイント制度の終了も近づき、その傾向は一層強まるので、景気は変化しないかやや悪化する。
		衣料品専門店（店長）	・残暑が10月まで続くと予想されており、来客数の減少傾向は変わらない。
		衣料品専門店（総務担当）	・客の様子からはやや良くなるのではないかと思えるが、客観的な数字をみると、むしろ悪い数字ばかりが出ているので、相殺されて変わらない。
		衣料品専門店（取締役）	・11月は涼しくなるので、衣料品は重厚な物が多く出回り、単価が上がるため、売上が上がる。しかし単価が上がれば、客は購買に慎重になる。特に景気が良くなる材料も見当たらないため、引き続き商品の内容に工夫をしていくことしかできない。
		家電量販店（総務担当）	・今年中はエコポイント制度の効果が期待できる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・エコカー購入補助金制度やエコポイント制度等一部の景気対策が9月末の期限を迎えるため、駆け込み需要は見込めるが、10月以降の販売動向が心配される。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・傾向としては良くなりそうな気配だが、まわりの環境が厳しくなりそうなので、先が読めない状況である。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・繁忙期の夏休みの売上が前年を下回り、深刻な状況である。今後2、3か月先の秋の行楽シーズンにおいても販売動向の向上は見込めない。
		高級レストラン（支配人）	・先がみえない不安を客は持っており、一部の消費者以外はお金を使わない。
		高級レストラン（専務）	・これから忘年会シーズンとなり少しは期待できるが、例年通りには動かない。年末までこの悪い状態が続く。来年、新幹線が全線開業し、当地区では大会やイベント、人の交流等が盛んになると予想されるため、それに期待する。
		旅行代理店（従業員）	・円高の影響か、秋の海外旅行の予約は出足が良い。ただし、全般的には直近の予約が多くなり、様子見の感がある。
		タクシー運転手	・客はとにかく日中の外出を控え、夜も繁華街には客がいない。また夜、店を閉めているところが多い。
		タクシー運転手	・今は景気の底と言われ、何かよほどのことがない限りタクシー業界に動きはない。この3か月ぐらいでは、今とほとんど変わらない。
		通信会社（営業担当）	・口蹄疫の終息宣言が出され、これを契機に少しでも良くなることが期待される。しかし、世の中全体の景気が悪いため、しばらくは今と変わらない状況が続く。
		通信会社（業務担当）	・来月はメーカー施策などのキャンペーンがあるが、商品やサービスに目新しさがなく、販売市場は改善しない。
		テーマパーク（職員）	・10、11月はスポーツキャンプやゴルフトーナメント等があるが、一般の個人客数や団体客数が伸びる材料がなく、厳しい状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		理容室（経営者）	・夏休みが終わり、学校が始まるので、例年通り学生の利用が少しはあるが、夏休みの間に学生の利用が一段落したので、あまり期待できない。涼しくなると来店サイクルが伸びるので、この悪い状況は変わらない。
		音楽教室	・秋に開催予定の展示会までは買い控える客が多く、変化はない。
		設計事務所（所長）	・仕事の性質上、結果に時間がかかることが多く、今、景気が悪いため、3か月先も景気が悪い。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・地方自治体や市内は、プレミアム付き商品券等の発行で景気回復を狙っているが、円高や株価の下落等の社会不安が依然たくさんあるため、まだ良くなる状況ではない。
		商店街（代表者）	・客の様子をみると、先行き不安のため、購買意欲がない。
		百貨店（売場主任）	・消費を取り巻く環境が悪化しているのに加えて、残暑が厳しく来月前半の秋物衣料の動きが良くない。
		百貨店（売場担当）	・円高の影響で輸入商品の商材の、店頭価格に対する価格メリットは、現状段階ではない。また円高の影響は製造業等に出るため、年末商戦やボーナス商戦に若干影響が出ると懸念される。また天候要因ではあるが、残暑が長引けば秋物が売れなくなることが懸念される。
		スーパー（店長）	・惣菜や寿司といったファストフード以外での低価格志向が強い。今年の暑さで飲料等の動きは良いが、これまではあまり売れなかった非ブランドの低価格商品が良く売れるようになってきている。
		スーパー（店長）	・現在、円高が急激に進んでおり、デフレ基調であるが、更に加速する可能性がある。スーパーは単価ダウンによる売上の減少を懸念している。
		スーパー（総務担当）	・残暑が厳しいと予想され、衣料品を中心に悪影響が出る。
		スーパー（総務担当）	・円高やデフレに異常気象が加わり、先行きの不透明感が一層加速している。
		コンビニ（エリア担当）	・10月にたばこが大幅な増税となり、来月単月では売上の上昇が予想されるが、増税後、売上を上げるのは、厳しい。
		コンビニ（販売促進担当）	・量販店の280、290円の弁当が非常に好評であり、コンビニの弁当の売上が落ちている。周辺の多くの中小企業のボーナスがカットされ、デフレ状況も続く見通しのなか、消費者の節約傾向はますます強まり、景気はやや下降していく。
		衣料品専門店（経営者）	・これまでは店で扱う商品が特殊であるため、景気とは関係ないという考えでいたが、やはり昨今の景気のように悪い状況が続いている。
		衣料品専門店（店員）	・今年は残暑が続く秋が短いと予想されており、秋物衣料の動きが厳しそうである。
		家電量販店（店員）	・猛暑が続く、エアコンが順調に売れている。しかし、ピークは過ぎ、季節商材がほとんど売れなくなる時期となっている。テレビの販売量は来年の地上デジタル放送の本格開始に向けて需要はあるが、単価が非常に下がっている。前年に10万円近くした商品が5万円台と非常に安くなっており、景気が上向きには厳しい状況となっている。
		家電量販店（店員）	・今月は季節要因によるところが大きく、その反動で季節商材の動きが悪くなる。また前年9月からインフルエンザ等の影響で空気清浄機やイオン発生機が爆発的に売れた状況を考えると、前年比の増加は見込まれない。景気は少し厳しい状況が続く。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー購入補助金制度が終わるため、売上の落ち込みは大きくなる。
		乗用車販売店（販売担当）	・エコカー購入補助金制度が9月末で終わり、駆け込み需要が大幅にあるが、需要の先取りとも考えられ、10月以降の販売量はかなり落ち込む。
		住関連専門店（経営者）	・報道では大企業や一部企業で好決算のニュースがあるが、同業者を始め、周りの底打ち感を感じられない。プレミアム付き商品券の発行が始まったが、日用生活品や食料品への支払いにまわり、耐久消費財である置き家具にまでは回っていない。先の景気がなかなかみえない。
		その他専門店〔書籍〕（代表）	・株価の低迷や経済対策の不足、先行きの不安等から消費が上向き楽観的な材料に乏しい。
		高級レストラン（経営者）	・来月の状況をみると、少しずつ予約が入っている。食材も旬の物が増え、客の飲食に対する意欲も多少はわいてくる。それにつけて接待が増えれば良い。ただ、円高や株安で打撃を受ける県内企業があり、心配される。
		観光型ホテル（スタッフ）	9、10月の宴席の問い合わせが過去に経験がないほど少ない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル(副支配人)	・例年10、11月は旅行代理店から団体客の予約が入るが、その代理店扱いの予約数は前年比50%減の状態である。
		タクシー運転手	・消費者の財布もひもが固く、夜の動きが非常に悪い。
		通信会社(企画担当)	・今月の販売量の増加には明確な理由がみえず、それが持続する可能性には疑義がある。
		通信会社(総務担当)	・雇用状況が悪く、同時に個人消費が伸び悩んでいる。また、円高によって景気は更に悪くなる一方である。
		学習塾	・保護者等からの話によれば、エコカー購入補助金制度や猛暑によるクーラー購入等を前倒しで出費しており、これから財布のひもは固くなる。
		住宅販売会社(従業員)	・景気の先行き不透明感が払しょくされない。
	悪くなる	住宅販売会社(従業員)	・成約件数が少なくなっており、問い合わせ件数も減っている。土地の動きも非常に少なく、土地売買の仲介の動き自体がなくなっている。
		一般小売店[青果](店長)	・与党の代表選や株価の暴落など先行き不安要素が多く、購買心につながるようなプラス材料が全くない。年内は厳しい状況が続く。
		衣料品専門店(店長)	・物が売れず、人の動きも変わらないため、とにかく景気が悪くなる。
		乗用車販売店(管理担当)	・エコカー購入補助金制度が9月で終わるため、その反動で新車販売においては前年比6～7割で推移すれば良いほうである。
		乗用車販売店(総務担当)	・今年の9月末でエコカー購入補助金制度が終了する。需要を先食いした分、その反動で新車販売台数が激減する。
	その他飲食[居酒屋](店長)	・6～8月はずっと売上が低下しており、先行きが分らない。厳しい状況が続く。	
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	農林水産業(経営者)	・不安要素がなくなり、個人消費も9、10月の行楽シーズンに向けて期待できる。冷凍食品メーカーも、秋口は年末年始向けの加工品の生産時期に入るため、ある程度期待できる。ただ円高により輸入物が入りやすくなっており、加工メーカーでは安い原料で安い加工品を作ろうとする傾向にある。
		食料品製造業(経営者)	・気候が良くなり、通常の製造ができるようになるため、やや良くなる。
		出版・印刷・同関連産業(営業担当)	・第二四半期締めのものであるため、受注量が増える。
		窯業・土石製品製造業(経営者)	・今年は猛暑で商品の動きが悪かったが、秋口にはいくらか良くなる。通常の商品の一つでも客の目を引く商品を作らなければ厳しい。
		建設業(社員)	・今月発注される工事が2、3か月後は、ピークに達している。今月と来月でどれくらいの工事が発注されるかにもよるが、良い状態が続く。
		経営コンサルタント(代表取締役)	・来月を境にかなり厳しくなる。一番大きな原因は、車のエコカー購入補助金制度の終了である。駆け込み需要がある来月は良いが、その後はかなり厳しい。電化製品関連でも、猛暑が終わればエアコンの受注が終わり、次に出てくる目新しい商品がないため、全般的に秋口は厳しい状況となる。
		その他サービス業[物販リース](従業員)	・今月は大口受注も相次ぎ、地方にもやっと緩やかな回復が実感できるようになった。ここ2～3か月の受注推移をみてみないと一概には言えないが、今月の引合状況から推察すると、良くなる。
	変わらない	食料品製造業(経営者)	・口蹄疫は終息宣言が出されたものの、人の移動が元の水準に戻るにはかなりの時間を要する。また来年3月の九州新幹線全線開業までは目立ったイベントもなく、当分景気は変わらない。食料品製造についても今の状況が続く。
		繊維工業(営業担当)	・生産量は増えるかもしれないが、社会的にまだまだ不景気なので卸値は低いままで推移する。工賃は、厳しいままで推移する。
家具製造業(従業員)		・急激な円高に歯止めが掛からない状況の中、国内景気への期待感も縮小しており、再び投資控えなどに向かっている。住宅建築や商業施設の投資も、今の状況下では保留や中止に向かう傾向となっている。ただ、輸入する側としては非常に良い状況であるため、イタリア等からの家具輸入は徐々に増えている。この円高を活用して輸入商品の拡販を図りたいが、景気に対する先行き不安によりなかなか売れない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		鉄鋼業（経営者）	・九州地区における建設需要の回復を示すような兆しは全く見当たらず、内需の掘り起こしや景気回復を後押しするような現実的な政策が見受けられない。建設需要がゼロとなることは決してないものの、国内需要を糧とする企業の体力は確実に弱っており、今後、建設業界にかかわる様々な業種で与信不安が増すことは否めない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・下振れはこれ以上考えられないが、上振れするような良い話もない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・半導体関連そのものは今非常に景気が良い状態で推移しており、2、3か月先もこの状況で推移する。また、全般的に円高の影響を受けるのではないかと懸念がある。
		輸送業（総務担当）	・荷動きが良くない商品が多い。ただし、極端に悪い商品もないので横ばいが続く。
		通信業（職員）	・今年度中の情報通信工事の受注量は、今後も順調に推移する見込みである。ただし、来年度以降は補助事業がなくなるため、情報通信の官庁工事は急激に落ち込む。
		金融業（得意先担当）	・代表者の経済環境の危機意識によって、対処方法がかなり大きく異なっている。取引先を取り巻く経済環境は必ずしも好転している状況にはなく、当面、この状況が続く。取引の状況には注視する必要がある。
		金融業（営業担当）	・エコカー購入補助金制度の終了により、自動車関連の中小企業の売上の落ち込みが予想され、低迷する状況は変わらない。
		不動産業（従業員）	・商業施設の売上が横ばいに推移し、この状況が続く。
		新聞社（広告）	・九州新幹線の開業が大きなトピックスではあるが、2、3か月のスパンでは大きな動きはなく、依然厳しい状況が続く。
		経営コンサルタント	・国全体の方針が定まらないのと並行して、企業としての将来の方針が立てにくい状況が続いている。これが解決しない限り、活発な動きはない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・極端に悪くなるような気配はなく、今月並みの受注は確保できる。
やや悪くなる		化学工業（総務担当）	・昨今の急激な円高の影響により、輸出関連産業を含め国内経済の冷え込みが心配される。
		電気機械器具製造業（経営者）	・仕事量は若干減少する。コストを下げきれずに、単価の値下げに対応できないという厳しい局面を迎える。新しい事業展開をしているが、意思が決定しない、様子を見ようという客が多く、景気はやや悪くなる。
		建設業（従業員）	・受注競争の激化により受注金額の低下が著しく、業界全体の景気が悪くなる。また、地域も基幹産業の低迷等により全体的に景気は悪いままである。
		金融業（調査担当）	・このまま円高が続けば、金利低下による貸出金の低下効果よりも、輸出企業等の悪影響の方が大きくなるため、将来の景気をやや悪くなる。
		広告代理店（従業員）	・今月の新聞折込枚数は前年比95%と悪化している。個人消費が上向かないため、スーパー部門や不動産部門に活気が戻らない。特に、消費のバロメータである百貨店のチラシが減少している。折込効果が希薄になっており、今後受注量が増える気配がない。
		広告代理店（従業員）	・売上額はピーク時から下がり続けており、更に下がる見通しである。
悪くなる		一般機械器具製造業（経営者）	・先々の設備投資の引き合いに消極的な話がみられる。受注はおろか引き合いも手薄になっている。
		金融業（営業職涉外係）	・政府や日銀の具体策は効果を発揮するに至らず、引き続き急激な円高や株安が続くため、厳しくなる。
		経営コンサルタント	・社員にはボーナスなし、退職金なしの状態で会社を維持するのがやっとである。厳しい状況が続く。
		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・国の交付金や補助金等を活用した業務を市町村が企画できないため、市町村の事業が実施できない。このまま市町村が委託事業として発注する業務が減少していくと、業務が受注できず、調査や計画、設計を行う業者の景気はますます悪化する。
雇用 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		求人情報誌製作会社（編集者）	・博多駅の再開発による大量の雇用創出が見込まれており、9月あたりからそろそろ人材確保の動きが始まる。
		職業安定所（所長）	・新規求人や求人倍率が前年を継続して上回っていることから、景況感はやや良くなる。
		職業安定所（職員）	・有効求人が増加傾向であるほかに、有効求職者数は減少の傾向にあり、事業主都合での解雇者が大きく減少している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・今年上期の業績次第で変わるが、今の段階では、人手を増やせるような企業は少ない。今の人員で対応を考えている企業がほとんどである。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・急激な円高や株価の下落が企業業績に影響を及ぼし、雇用情勢も先行きがみえない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数をみると前月は前年比で減少しており、改善がみえない。また製造業を中心に今後、円高の影響も考えられ、景気の状態は先行き不透明である。
		民間職業紹介機関（社員）	・派遣先の景気は一部回復しているものの、事務的要員は社内要員調整で済む程度で、新たに外部から増員しなければならないほどではない。半導体や電気、運送等の一部、要員需要が戻っているが、従前のような勢いはまだない。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・求人の出方が弱く、後ろ倒しになっている。
		学校〔大学〕（就職担当者）	・現大学4年生対象の求人は更に縮小していくことが予想される。反面、現3年生を対象とした求人の動きが出てくるが、採用数の拡大に繋がるような話は人事担当者からは聞かれぬ。
やや悪くなる		人材派遣会社（社員）	・政局も不安定で景気改善策もない。中小企業は自力で生き残るしかなく、自社も緩やかな人員整理を始める。
		人材派遣会社（社員）	・円高影響による景気後退懸念から人員の縮小、維持の方針に傾く。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・地元企業人事担当者と地元大学の関係者の話では、新卒の求人雇用は更に厳しくなる。こうした状況が続けば、将来の景気への影響も避けられない。
		職業安定所（職員）	・求人数は景気の回復基調に合わせて緩やかながらも改善してきている。しかし、最近の円高や、エコポイント制度等経済対策の終了を踏まえると、雇用情勢の悪化が懸念されるところもある。また、企業の先行き不安感や不透明感が払しょくできず、新規学卒求人の状況も依然として厳しい状態である。非常に不透明感が強い状況が続く。
		職業安定所（職員）	・円高により悪影響を受けている企業が目立ち、新規求人数の伸びが鈍化していくような状況が考えられる。
悪くなる		民間職業紹介機関（支店長）	・円高の悪影響が取引企業に即座に始まった。商談が本社の指示で一時中断、無期延期あるいは取りやめになることが頻発している。需要回復基調が頓挫しそうな気配である。

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる	-	-
		やや良くなる	百貨店（営業担当）
	変わらない	コンビニ（経営者）	・たばこ増税前の買いだめによる売上増が見込める。
		衣料品専門店（経営者）	・買上客数は減少傾向にあるが、今年は履物の立ち上がりを少し遅めに設定してあるので、履物の実売期が来ると上向く。
		家電量販店（総務担当）	・エコポイントの駆け込み需要が間違い無く来る。
		旅行代理店（代表取締役）	・秋の旅行需要も受注も前年よりも多く感じる。
		通信会社（店長）	・9月よりスマートフォンの新サービスが開始されることにより、市場が活気づくことを期待する。
		スーパー（販売企画担当）	・当社にも当てはまるが、夏季賞与が下がったという話が出ており、消費者の財布のひもはまだ固くなるとしか考えられない。3か月後での景気回復は無い。
		コンビニ（経営者）	・客の節約志向は変わらないので、しばらくは景気が悪い状態が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・観光客も前年と比べると回復傾向にあるが、前々年と比べると増加したとは言えない。たばこ増税前の一時的な駆け込み需要は見込めるが、増税後は反動により、購買意欲が縮小する可能性がある。
コンビニ（エリア担当）	・景気の状態が好転している雰囲気がある。特に今月はインターハイの影響が大きい。来月は前年に比べて連休の日並びが悪いので、観光面では苦戦するが、県内景気は安定すると考える。また、10月の子ども手当にも期待したい。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル(マーケティング担当)	・現時点の予約状況が前年を上回っている外に、定期航路が増えることにより外国客も増えるため、今月と同様、好調に推移すると見込む。
	やや悪くなる	その他専門店[楽器](経営者)	・エイサー大会などの一部のイベントに期待している。観光客のリピーター増加にも期待したいが、購買客の減少と販売店間での競争で、厳しい状況である。
		観光名所(職員)	・現在の日本経済は円高による厳しい状況にある。また、エコカー購入補助金の終了など、これからも厳しい状況が続く。県外からの入域観光客に頼る沖縄観光は厳しい状況が予想される。
	悪くなる	商店街(代表者)	・現在、中心商店街は来客数が微妙に落ちているが、その中でも特に観光客の消費金額が落ちているという情報がある。なお、地元客も大型店に吸収されており、過疎化が進んでいる。国全体も大変厳しい状態であるが、街の状態も大変危機的状況にある。
		その他飲食[居酒屋](経営者)	・9月から例年落ち込むので、内部の体質改善をしており、また早めの企画を打っているがまだ手ごたえを感じられず厳しい状況が続くと見ている。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	通信業(営業担当)	・受注案件の契約が取れて、技術者要員の引き合いも増えてきている。
	変わらない	輸送業(営業担当)	・各業種の取引先から、売上減の声がよく聞かれる。また、今まで外注していた業務を内製化するなどしており、物流業界としては非常に厳しい情勢となっている。
		輸送業(代表者)	・宮古・八重山・久米島の全地区とも、季節要因を除いては堅調に推移すると見込んでいる。
		広告代理店(営業担当)	・観光及び情報分野を中心に国が支援する動きは活発化しているように感じられる。しかし、その効果として雇用が改善され、地域の経済が活性化していくまでにはかなりの時間を要する。相変わらず民間企業の広告・販促予算の投資は厳しい状況にある。
		コピーサービス業(営業担当)	・受注・売上とも横ばい状態が続く。
	やや悪くなる	会計事務所(所長)	・インターハイの特需が終わり、景気も落ち着いているのではないかとみている。外国からの輸入も多い県内では、円高によって多少恩恵があるかもしれないが、県全体の景気には寄与しない。
悪くなる	-	-	
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社(経営者)	・現在、求人依頼を受けてはいるが雇用のミスマッチがあり、大きく数字に転化できないところがある。派遣依頼自体はしばらく堅調に続きそうなので、ミスマッチに上手く対応できれば業績は上がる。
	変わらない	求人情報誌製作会社(営業担当)	・企業はしっかりとした人の採用を希望しており、採用担当者が慎重になってきている。雇用が劇的に改善されないと景気回復は難しい。
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-